

科目名	JAZZ FUNK1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の学習 内容	ベーシックなJazzFunkダンスの内容。クラシックバレエやFunkの基礎も取り入れながら、JAZZFunkで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。					
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	フロアでセクシーに表現。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	フォーメーションで踊る①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	フォーメーションで踊る②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	フリーでのダンス強化	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	魅せ方、表現の練習	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習		個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ FUNK2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の学習 内容	ベーシックなJazzFunkダンスの内容。JAZZFunkで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。						
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	アイソレーション(胸)	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	アイソレーション(肩)	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	アイソレーション(首)	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	フロアでセクシーに表現①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	フロアでセクシーに表現②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	フォーメーションで踊る①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	フォーメーションで踊る②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	フリーでのダンス強化①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	フリーでのダンス強化②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習		個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の学習 内容	ベーシックなJazzダンスの内容。クラシックバレエの基礎も取り入れながら、JAZZで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。					
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。コンビネーションでは、曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業概要説明。ウォーミングアップ解説、ピルエット練習	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	エクササイズの難度アップ フォンデュ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	エクササイズの難度アップ デベロッパ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	クロスフロアもコンビネーションでやる。バットマンからピケシェネ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	クロスフロアもコンビネーションでやる。半シェネーピルエット	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	クロスフロア ソデバスクに挑戦①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	クロスフロア ソデバスクに挑戦②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	クロスフロア ランベルセに挑戦①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	クロスフロア ランベルセに挑戦②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	コンビネーションを少人数で鏡無しで踊れる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習		個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の学習 内容	ベーシックなJazzダンスの内容。クラシックバレエの基礎も取り入れながら、JAZZで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。					
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。コンビネーションでは、曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説、ピルエット練習	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	エクササイズの難度アップ フォンデュ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	エクササイズの難度アップ デベロッパ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	クロスフロアもコンビネーションでやる。バットマンからピケシェネ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	クロスフロアもコンビネーションでやる。半シェネ→ピルエット	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	クロスフロア ソデバスクに挑戦①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	クロスフロア ソデバスクに挑戦②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	クロスフロア ランベルセに挑戦①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	クロスフロア ランベルセに挑戦②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	コンビネーションを少人数で鏡無しで踊れる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習		個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ B-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス歴 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の学習内容	プロのダンサーになるために必要なことを取得。ストレッチ、基礎トレーニング、応用					
到達目標	もらった振り付けを正確に覚えて表現する。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	プリエなどバレエの基礎	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	振り付けを覚える。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	振り付けを正確に踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	表情もつけて踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	何回踊っても間違えない。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	スローな動きで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	手足がしっかり伸びるようにする。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	感情をこめて踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	少人数に分けて大きく踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	アップテンポのダンス	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	グルーヴとアイソレーションを大切に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習		個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。		
【使用教科書・教材・参考書】		シューズ		

科目名	JAZZ B-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス歴 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の学習内容	プロのダンサーになるために必要なことを取得。ストレッチ、基礎トレーニング、応用					
到達目標	もらった振り付けを正確に覚えて表現する。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	セクシーに歩く練習	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	軽いコンビネーションのクロスフロア	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	腰をしっかり動かせるように	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	可愛い歩き方	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	笑顔で歩く	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	アイドルらしい振り付け	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	表情を大切に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	フリーでのダンス強化	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	フロアでセクシーに。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習		個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。		
【使用教科書・教材・参考書】		シューズ		

科目名	JAZZ C-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス歴 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャズダンス基礎の確認、徹底</li> <li>・ダンスを通して表現の実践</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①正しい姿勢を理解し、実践できる。</li> <li>②基礎の大切さを理解している。</li> <li>③振りを覚え、曲の意味に沿って表現しながら踊ることが出来る。</li> </ul>					
評価方法と 基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの説明、ピルコット・コンビネーション	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	ウォームアップの解説 ①姿勢・コンビネーション	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	ウォームアップの解説 ②パラレルの重要性・コンビネーション	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	ウォームアップの解説 ③ルルベ・コンビネーション	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	プリエの説明、実践	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	タンデュ・デガジェの説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	体重移動 タンデュ→タンデュ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	片足になる パッセ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	体重移動 タンデュ→パッセ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	ロンデジャンプ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	ロンデジャンプ→ピケ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	ピルエットダブルを安定させる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	前週の復習。次週に向けての自主練習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ C-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 渡辺裕子 久次亜希子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	JAZZダンス歴 17年・12年・18年・9年・26年					
授業の 学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロスフロアを増やしたい。</li> <li>・長いコンビネーションをする</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①テクニックの向上</li> <li>②自分で考え、人に見せることを前提としたダンスをすることが出来る。</li> </ul>					
評価方法と 基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの確認	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋力アップ(筋トレのレベルアップ)	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	エクササイズの難度アップ フラットバックから起きて ルルベへ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	エクササイズの難度アップ 片足ブリエの強化・フ ォンデュ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキングの練習①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	ウォーキングの練習②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	クロスフロア ロンデジャンプ①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	クロスフロア ランベルヤ①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	クロスフロア ロンデジャンプ②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	クロスフロア ランベルヤ②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	アームスのポジションの安定	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	コンビネーションを正しく人に振りうつしが出来る	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	フロアでセクシーに。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
時々ゴムやボールを使用				



科目名	バレエA-1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	秋山かおる
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プロGRESSバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す」 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は バーレッスン(約50分)+センタープラクティス(約40分) ※ストレッチは慣れるまでは授業時間内で実施→ストレッチの種類ややり方を理解できたら授業前に自分でストレッチをし、バーレ ンから授業開始となります						
到達目標	①バーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センタープラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法と基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチの仕方、ポジションとバーレッスン	ストレッチとポジションの復習
2		演習	バーレッスン(ターンアウトの必要性を学ぶ)	ストレッチ+大腿骨の動かし方を研究
3		演習	バー+センターのアダージオとタンジュ	ストレッチ+左右の軸足の感覚を研究
4		演習	前回の内容にピルエットの基礎を追加	ストレッチ+ルルベの復習
5		演習	前回の内容にスモールジャンプを追加	ストレッチ+アームス(腕)の使い方を研究
6		演習	前回の内容にピケターンを追加	ストレッチ+ターンにおける首のつけ方を復習
7		演習	前回の内容にアレグロを追加	〃
8		演習	バー+センターは前回の内容に应用を加える	ストレッチ+顔のつけ方(方向)の復習
9		演習	バー+センターは前回の内容に应用を加える	ストレッチ+自分の弱点は何かを考え復習
10		演習	バー+センターは前回の内容に应用を加える	ストレッチ+自分の弱点は何かを考え復習
11		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習
12		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習
13		演習	バーレッスン+ 実技試験	ストレッチ+前期で覚えた用語を確認・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まるまでに自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスンの服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエA-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	秋山かおる
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プロGRESSIVEバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す」 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は バーレッスン(約50分)+センタープラクティス(約40分) ※前期より、音楽の使い方やステップの幅に応用性をもたせてゆく						
到達目標	①バーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センタープラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法と基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期の内容+グランワルツについて	ストレッチ+ステップの復習
2		演習	前回の内容+グランワルツ(ダイナミックに)	ストレッチ+ステップの復習
3		演習	バー+センター(ターンに重点)	ストレッチ+軸足ルルベの復習
4		演習	バー+センター(アダージオに重点)	ストレッチ+プロムナードの仕組みを復習
5		演習	バー+センター(アレグロに重点)	ストレッチ+アームス(腕)の使い方を研究
6		演習	バー+センター(ジャンプに重点)	ストレッチ+アントルラセの仕組みを復習
7		演習	バー+センター(ジャンプに重点)	ストレッチ+アントルラセの仕組みを復習
8		演習	バー+センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ+顔のつけ方(方向)の復習
9		演習	バー+センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ+アームス(腕)の復習
10		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習(表現の研究)
11		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習(音楽性を踏まえ)
12		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+自分の弱点は何かを考えての復習
13		演習	バーレッスン+センター	一年間のまとめとしてのクラスレッスン
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まるまでに自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスンの服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエB-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	<p>① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が多いため、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。</p> <p>② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。</p> <p>③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。</p> <p>①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のパーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(パーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)</p>						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	腹筋、背筋、腹斜間の筋力強化の為のトレーニング パーレッスン、手のポジション(アンバー、アンナヴァン、アンオー、アラセゴン)足のポジション(1～6番)の説明を重点的に	知っているストレッチをしておく。
2		講義・発表	プリエ:身体をまっすぐにたてる意識を持つ事を重点的に。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。手のポジション、足のポジションの復習。
3		講義・発表	タンジュとジュテ:自分の前横後ろへ身体がぶれずに真っ直ぐに足を出せる事を重点的に。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。プリエの復習。
4		講義・発表	タンジュとジュテ:足の指、ドゥミをきちんと使えるように意識することを重点的に。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復習。
5		講義・発表	ロンデジャンプ:前横後ろのタンジュを連続して繋げて動かす事を覚える、動かすときに身体、腰がブレない事を意識して。パッセの説明。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復習。
6		講義・発表	フォンデュ:片足のプリエ、及びクベの形を理解、習得	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ロンデジャンプ、パッセの復習。
7		講義・発表	フラッペ:体幹がブレずに音、リズムに合わせてはっきりと素早く足を動かせる。	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フォンデュ、クベの復習
8		講義・発表	アダジオとグランバットマン:タンジュを通して足を高く上げ、キープ出来るように。素早く高く上げられるように。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フラッペの復習。
9		講義・発表	アダジオとグランバットマン:デベロップの習得。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アダジオ、グランバットマンの復習。
10		講義・発表	ルルベの確認。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。デベロップの復習。
11		講義・発表	スシュとエシャッペの説明。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ルルベの復習。
12		講義・発表	シャンジュマンの説明。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュとエシャッペの復習。
13		試験	12までのパーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解力の確認。	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シャンジュマンの復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエB-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 下島功佐
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト					
授業の学習 内容	<p>① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。</p> <p>② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。</p> <p>③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げてほしい。</p> <p>①～③をふまえて柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為にバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)</p>					
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。					
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	センターレッスンでの角度、身体の向きの説明、エファセ、クロワゼ、エカルテ等。	前期に学んだストレッチ、筋力トレーニング。
2		講義・発表	バーを使わずに体幹を保ってタンジュ、グランバットマンと片足でパッセのバランス。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでの身体の向き、角度の復習。
3		講義・発表	回転をする時の首から上、顔の使い方、アンデダンとアンデオールのビルエットの説明と実践。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターでのタンジュ、グランバットマン、パッセのやり方の復習。
4		講義・発表	バーを使わずにアダジオ、デベロッパの実践。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ビルエットのアンデオールとアンデダンの違いの復習。
5		講義・発表	センターでのスシュとエシャッペ、スモールジャンプ(シャンジュマンやスーブルソーなど)前後左右に動かないその場でやるもの、の説明と実践。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでのアダジオの復習。
6		講義・発表	グリッサードとアッサンブレの説明と実践。	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュ、エシャッペとスモールジャンプの復習。
7		講義・発表	5.6.7の内容を応用したコンビネーション	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グリッサードとアッサンブレの復習。
8		講義・発表	大きなジャンプ、グランワルツ、基本的なコンビネーションで。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アレグロジャンプの復習。
9		講義・発表	グランワルツを少し複雑なコンビネーションで。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。
10		講義・発表	シェネ、ピケアンデダン等、早い回転の連続技の説明と実践。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。
11		講義・発表	シェネとピケアンデダンのコンビネーション。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シェネとピケアンデダンの復習。
12		講義・発表	ジャンプとターンのコンビネーション。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。連続回転コンビネーションの復習。
13		試験	後期12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解力の確認	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。今までに習ったコンビネーションや回転技が出来るか試してみる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエ C-2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉村真弓
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	都内バレエスタジオにてバレエ講師を務める傍らダンサーとしても活動						
授業の学習 内容	クラシックバレエの基礎を理解し、柔軟性、音楽性、表現を高めて、楽しく踊れるようになる。						
到達目標	クラシックバレエの基礎を理解し、柔軟性・音楽性・表現力を高める。楽しく踊れるようになる。						
評価方法と基	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	足、手のポジション、プリエ、タンジュ、ジュッテ、ロンデジャンプの動かし方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
2		演習	ジャンプ、グランバットマンの動かし方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
3		演習	フォンジュ、フラッペを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
4		演習	軸のアンデオールの意識を高める。センターでタンジュ、ボードブラを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
5		演習	動いている足のアンデオールの意識を高める。正しいアームスの使い方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
6		演習	回転に使う顔の付け方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
7		演習	ピルエット、ピケターンを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
8		演習	アレグロのバを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
9		演習	グリッサード、シャッセ、ストウニューなどバとバのつなぎめのバを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
10		演習	センターでアダージョを学ぶ、上半身の使い方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
11		演習	バとバをつなげて少し長いアンシェマンを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
12		演習	実技試験のアンシェマンを提示し、練習する	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
13		演習	試験(2、3人ずつ踊り身体の使い方、表現を見直す)	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 なし				

科目名	バレエ C-2	必修 必修	年次	1	担当教員	吉村真弓
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	都内バレエスタジオにてバレエ講師を務める傍らダンサーとしても活動					
授業の学習 内容	クラシックバレエの基礎を身につける。舞台人としての姿勢を学ぶ。					
到達目標	クラシックバレエの基礎を理解し、柔軟性・音楽性・表現力を高める。楽しく踊れるようになる。					
評価方法と基準	実技試験100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期で習得したバレエの基礎の確認	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
2		演習	バーでのタンジュ、ジュッテ、ロンでジャンプの軸の意識を高める	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
3		演習	アダージオの軸の意識を高め、上半身やアームス、顔の付け方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
4		演習	センターでのタンジュのはアームス、上体の使い方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
5		演習	ビルエットの質を高める。ビルエットのメインの組み合わせを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
6		演習	アレグロの種類を学び、早い動きに対応出来るように学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
7		演習	アレグロの組み合わせを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
8		演習	ターンの質を高める。軸の意識を高めてアンテオールを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
9		演習	グランジャンプを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
10		演習	グランジャンプの質を高める	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
11		演習	総括(アンテオールの意識を高めて、楽しく踊る)	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
12		演習	実技試験のアンシェナマンを提示し、練習する口	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
13		演習	試験 (2.3人ずつ踊り、身体の使い方、表現を見直す)	柔軟性を高めるためにストレッチ(スピリッツ)を毎日 する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 なし				

科目名	HIPHOP A-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HIPHOP基礎	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HIPHOP応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	HIPHOP応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		講義・演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	HIPHOP基礎～応用	各自授業内容を復習
9		講義・演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験口	各自授業内容を復習
13		試験・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	HIPHOP A-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HIPHOP基礎	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HIPHOP応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	HIPHOP応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		講義・演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	HIPHOP基礎～応用	各自授業内容を復習
9		講義・演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		試験・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校



科目名	HIPHOP B-1		必修 選択	選択	年次	1	担当教員 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年						
授業の学習内容	①Hip Hopのカルチャーの基本がオールドスクールにあるので、まずそのリズムの動きを知ることが大切。 ②全てのストリートダンスに繋がる原点。 ③社会人として常識のある人になって欲しい。そこからダンス界に羽ばたいて欲しい。						
到達目標	①1年生の間に基本的な身体作り、リズムコントロールが出来るようになる ②基礎トレーニングの実施。自宅でも出来るトレーニングのレクチャー ③聞く曲が偏らないよう色々なジャンルを聞けるようになる。またレッスンでも使用する。 ④言葉使いの徹底、挨拶						
評価方法と基準	実技テストによる採点						
授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		演習	HIPHOP基礎		各自授業内容を復習		
2		演習	HIPHOP応用(ステップの変化)		各自授業内容を復習		
3		演習	HIPHOP応用(リズムの変化)		各自授業内容を復習		
4		演習	フリーで踊ろう		各自授業内容を復習		
5		演習	ゲーム形式で踊ろう		各自授業内容を復習		
6		演習	オリジナルムーブを作ろう		各自授業内容を復習		
7		演習	ここまでのまとめ		各自授業内容を復習		
8		演習	HIPHOP基礎～応用		各自授業内容を復習		
9		演習	模擬バトル		各自授業内容を復習		
10		演習	試験の課題を提示		各自授業内容を復習		
11		演習	試験に向けての指導		各自授業内容を復習		
12		演習	プレ試験		各自授業内容を復習		
13		演習	試験		各自授業内容を復習		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ		レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ		レポート提出		
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。				
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	HIPHOP B-2		必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔 相沢圭祐
	学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年							
授業の学習内容	①Hip Hopのカルチャーの基本がオールドスクールにあるので、まずそのリズムの動きを知ることが大切。 ②全てのストリートダンスに繋がる原点。 ③社会人として常識のある人になって欲しい。そこからダンス界に羽ばたいて欲しい。							
到達目標	①1年生の間に基本的な身体作り、リズムコントロールが出来るようになる ②基礎トレーニングの実施。自宅でも出来るトレーニングのレクチャー ③聞く曲が偏らないよう色々なジャンルを聞けるようになる。またレッスンでも使用する。 ④言葉使いの徹底、挨拶							
評価方法と基準	実技テストによる採点							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	HIPHOP基礎		各自授業内容を復習			
2		演習	HIPHOP応用(ステップの変化)		各自授業内容を復習			
3		演習	HIPHOP応用(リズムの変化)		各自授業内容を復習			
4		演習	フリーで踊ろう		各自授業内容を復習			
5		演習	ゲーム形式で踊ろう		各自授業内容を復習			
6		演習	オリジナルムーブを作ろう		各自授業内容を復習			
7		演習	ここまでのまとめ		各自授業内容を復習			
8		演習	HIPHOP基礎～応用		各自授業内容を復習			
9		演習	模擬バトル		各自授業内容を復習			
10		演習	試験の課題を提示		各自授業内容を復習			
11		演習	試験に向けての指導		各自授業内容を復習			
12		演習	プレ試験		各自授業内容を復習			
13		演習	試験		各自授業内容を復習			
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ		レポート提出			
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ		レポート提出			
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。					
【使用教科書・教材・参考書】								

科目名	HIPHOP C-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	ストレッチ、アイソレーションなどのボディコントロール、リズムのとり方や基礎ステップなどの説明&練習、リズムトレーニング、基礎でやった事を応用したコンビネーション、助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業					
到達目標	リズムが体に自然と入るようにする。体全体が1つに繋がった感覚を身につける。自然と様になった形とグルーヴ感で踊れるようにする。自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように)。仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる					
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	自己紹介、レベルチェック	レッスン後のアフターケア
2		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
3		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
4		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
5		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
6		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
7		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
8		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
9		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
10		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
12		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	前期の授業内容を確認しておく
13		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	理解できていないこと、質問等をまとめておく
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP C-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	ストレッチ、アイソレーションなどのボディコントロール、リズムのとり方や基礎ステップなどの説明&練習、リズムトレーニング、基礎でやった事を応用したコンビネーション、助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業					
到達目標	リズムが体に自然と入るようにする。体全体が1つに繋がった感覚を身につける。自然と様になった形とグルーヴ感で踊れるようにする。自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように)。仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる					
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	自己紹介、レベルチェック	レッスン後のアフターケア
2		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
3		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
4		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
5		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
6		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
7		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
8		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
9		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
10		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
12		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	前期の授業内容を確認しておく
13		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	理解できていないこと、質問等をまとめておく
14			イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP D-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔相 沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年						
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力の向上。</li> <li>・リズム感の向上と細やかな表現力向上</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントを音楽に変換し、踊れるようになる。</li> <li>・表現力を身につける。</li> <li>・素早く振付を覚える。</li> <li>・フリーに対応できるようになる。</li> </ul>						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	HIPHOP基礎	各自授業内容を復習
2		演習	HIPHOP応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		演習	HIPHOP応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		演習	HIPHOP基礎～応用	各自授業内容を復習
9		演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP D-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔相 沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年						
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力の向上。</li> <li>・リズム感の向上と細やかな表現力向上</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントを音楽に変換し、踊れるようになる。</li> <li>・表現力を身につける。</li> <li>・素早く振付を覚える。</li> <li>・フリーに対応できるようになる。</li> </ul>						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	HIPHOP基礎	各自授業内容を復習
2		演習	HIPHOP応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		演習	HIPHOP応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		演習	HIPHOP基礎～応用	各自授業内容を復習
9		演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP E-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年						
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力の向上。</li> <li>・リズム感の向上と細やかな表現力向上</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントを音楽に変換し、踊れるようになる。</li> <li>・表現力を身につける。</li> <li>・素早く振付を覚える。</li> <li>・フリーに対応できるようになる。</li> </ul>						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	HIPHOP基礎	各自授業内容を復習
2		演習	HIPHOP応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		演習	HIPHOP応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		演習	HIPHOP基礎～応用	各自授業内容を復習
9		演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP E-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田中英輔
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年						
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力の向上。</li> <li>・リズム感の向上と細やかな表現力向上</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントを音楽に変換し、踊れるようになる。</li> <li>・表現力を身につける。</li> <li>・素早く振付を覚える。</li> <li>・フリーに対応できるようになる。</li> </ul>						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	HIPHOP基礎	各自授業内容を復習
2		演習	HIPHOP応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		演習	HIPHOP応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		演習	HIPHOP基礎～応用	各自授業内容を復習
9		演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	FREE STYLE A-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール)</li> <li>●様々な体の使い方や技を学ぶ</li> <li>●音に合わせて自由に踊る</li> <li>●コンビネーション(振り)を踊る</li> <li>●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技</li> <li>●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●踊り全般に通用する体を作る</li> <li>●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる</li> <li>●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように)</li> <li>●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける</li> <li>●踊りや体型、人間性も含め自分を知る</li> </ul>					
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	自己紹介、レベルチェック	レッスン後のアフターケア
2		講義、演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。コンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
3		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、場ミリを意識したコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
4		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
5		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
6		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
7		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
8		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
9		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
10		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
12		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	前期の授業内容を確認しておく
13		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	理解できていないこと、質問等をまとめておく
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREE STYLE A-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール)</li> <li>●様々な体の使い方や技を学ぶ</li> <li>●音に合わせて自由に踊る</li> <li>●コンビネーション(振り)を踊る</li> <li>●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技</li> <li>●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●踊り全般に通用する体を作る</li> <li>●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる</li> <li>●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように)</li> <li>●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。</li> <li>●体全体が1つに繋がった感覚を身につける</li> <li>●踊りや体型、人間性も含め自分を知る</li> </ul>					
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	レッスン後のアフターケア
2		講義、演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
3		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
4		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
5		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
6		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
7		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
8		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
9		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
10		講義、演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
11		実技試験	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	前回の復習・レッスン後のアフターケア
12		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	前期の授業内容を確認しておく
13		講義、演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	理解できていないこと、質問等をまとめておく
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋カトレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		筋肉トレーニングを基盤とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋カトレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			筋肉トレーニングを基盤とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンテンポラリー1	必修 選択	選択	年次	1年	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 屋間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①なぜこの授業を受けなければならないのか ②どの科目と関係するのか、その位置づけ ③学生にどうなって欲しいか④※1~3をふまえどのような授業を展開するか ①コンテンポラリーダンスは高い柔軟性と強い体幹が必然です。つまりあらゆるダンスの動きに適用する身体になるという事。②バレエ、テーマパーク、ジャズダンス等に適用可能。③最初は、ポジション、ムーブメントなど分からない事ばかりですが、継続することでダンサーの身体になっていきます。④コンテンポラリーダンスの基礎とポジション、ダンスクラシックの理解。姿勢、骨と筋肉の正しい使い方を学ぶ。						
到達目標	初歩的な身体構造の理解。正しい姿勢と立ち方、骨と筋肉の使い方を習得する。目標→骨とインナーマッスルの正しい連動を理解する事で外側に見える動きのクオリティーの向上を目指す。						
評価方法と基準	出席率60%、授業態度20%、実技試験20% 理想レベル85%、標準レベル75% * 時間外学習→毎日ストレッチ等をするこ柔軟性と関節の可動域を広げる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーションと身体の骨と筋肉の説明と理解。	シラバス等を見て準備する。
2		講義・演習	①腸腰筋の引き上げと正しい姿勢。立ち方。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
3		講義・演習	②インナーマッスルの理解と応用。①の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
4		講義・演習	③フロアエクササイズとストレッチの理解。①~②の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
5		講義・演習	④センターエクササイズとストレッチの理解。①~③の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
6		講義・演習	⑤クロスフロアステップの理解。①~④の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
7		講義・演習	⑥コンビネーションの理解。①~⑤の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
8		講義・演習	⑦クロスフロアステップの基礎。①~⑦の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
9		講義・演習	⑧コンビネーションの基礎。①~⑧の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
10		講義・演習	⑨クロスフロアの応用。①~⑨の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
11		講義・演習	⑩コンビネーションの応用。①~⑩の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
12		講義・演習	⑪動きとインナーマッスル繋がり理解。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
13		講義・演習	①~⑪の反復。	試験結果の反省と今後の対策。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習、ストレッチ等を反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスンは身体ラインが見える物。裸足or靴下。				

科目名	コンテンポラリー2	必修 選択	選択	年次	1年	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①体の中心軸(背骨を中心した骨盤、胸郭、頭の正しい位置)とインナーマッスルの使い方を理解してアカデミックな動きに繋げる事でバレエ、テーマパーク、ジャズダンス等に活用可能なダンサーの身体になります。②正しいダンサーの身体になる為の内側の骨と筋肉の使い方に気づいて欲しい。③コンテンポラリーダンスのポジション、ダンスクラシックの更なる理解。呼吸法、姿勢、骨とインナーマッスルの正しい使い方を学ぶ。④メンタル講義を行う。						
到達目標	体幹軸を習得する事で、アカデミックな動きに対応出来、正しい骨とインナーマッスルの使い方を旨す。ダンスで大事なメンタル面の強化を図る。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	①成長する為の心構え。骨とインナーマッスルの確認と内転筋の理解	前期のレッスン経験の確認。
2		講義・演習	②腸腰筋の引き上げと腹筋と内転筋の繋がりを理解。	①の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
3		講義・演習	③エクササイズ、ストレッチの更なる理解と新ステップの理解。	②の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
4		講義・演習	④新ステップ、新コンビネーションの理解。 ①～③の反復。	③の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
5		講義・演習	⑤新ステップ、新コンビネーションの反復。 ①～④の反復	④の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
6		講義・演習	⑥新ステップ、新コンビネーションの反復。 ①～⑤の反復。	⑤の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
7		講義・演習	⑦新ステップ、新コンビネーションの応用。 ①～⑥の反復。	⑥の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
8		講義・演習	⑧新ステップ、新コンビネーションの応用。 ①～⑦の反復。	⑦の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
9		講義・演習	⑨新ステップの反復。新々コンビネーションの理解。 ①～⑧の反復。	⑧の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
10		講義・演習	⑩新ステップの反復。新々コンビネーションの反復。 ①～⑨の反復。	⑨の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
11		講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
12		講義・演習	成長のプロセスのメンタル講義	筆記用具持参。復習、理解。
13		講義・演習	ポジティブ、ネガティブのメンタル講義	筆記用具持参。復習、理解。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を理解力、確認して自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。				

科目名	テーマパークA-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	竹内ゆかり 南山光徳
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師歴15年						
授業の学習 内容	クラシックバレエを基礎としたアイソレーションを繰り返し行い、基礎を身につける。 身体の柔軟性を上げるためのストレッチ。 ターン、ジャンプなどの基本的なテクニック向上のためのクロスフロア。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを覚える	授業内容を自主練習
2		講義・演習	身体の使い方を学ぶ	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アームスの正しいポジションを学ぶ	授業内容を自主練習
4		講義・演習	ストレッチのやり方を学ぶ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	バレエポジションを覚える	授業内容を自主練習
6		講義・演習	身体の軸の作り方を学ぶ	授業内容を自主練習
7		講義・演習	様々なターンの説明	授業内容を自主練習
8		講義・演習	ターンをきれいに回る	授業内容を自主練習
9		講義・演習	様々なジャンプの説明	授業内容を自主練習
10		講義・演習	ジャンプを正しく飛ぶ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	ターンとジャンプの組み合わせ	授業内容を自主練習
12		講義・演習	クロスフロアを行う	授業内容を自主練習
13		講義・演習	今までの授業内容のテストを行う	授業内容を自主練習
14		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
15		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
準備学習 時間外学習		常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークA-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	竹内ゆかり 南山光徳
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師歴15年						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、 音楽に合わせて踊る。						
到達目標	リズムをしっかりと感じ、個性豊かな創造性を身につける。 プロの世界でも通用するようなダンススキルを習得できることを 目的とする。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを覚える	授業内容を自主練習
2		講義・演習	苦手なテクニックを自覚し練習	授業内容を自主練習
3		講義・演習	ターン、ジャンプなど確認	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振り付けを覚える	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振りの中でのテクニックの応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振りの中での表現力の向上	授業内容を自主練習
7		講義・演習	振り覚えのスピードを上げる	授業内容を自主練習
8		講義・演習	振りの中での表情をつける	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より高度な振りを覚える	授業内容を自主練習
10		講義・演習	舞台などでの魅せ方	授業内容を自主練習
11		講義・演習	テクニックの向上練習	授業内容を自主練習
12		講義・演習	集中力の作り方	授業内容を自主練習
13		講義・演習	オーディションでのメンタル	授業内容を自主練習
14		講義・演習	長めの振りでテスト	授業内容を自主練習
15		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
準備学習 時間外学習		常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。		
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	テーマパークB-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	柳原華奈
学科・専攻	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	1/30 2単位		
教員の略歴	サンリオピューロランド(ライブエンターティナー)・東京ディズニーリゾート(ダンサー)						
授業の学習 内容	一年後のテーマパークオーディションに向けて、基礎を大切に、身体技術と表現力を高める。 レオタード、髪型、メイクなどのアドバイス。 自分の優れている部分、苦手な部分を理解して、同じクラスのメンバーと協力しながら高め合って欲しい。						
到達目標	・苦手な部分を理解し、改善方法を見つけ取り組む。(振り覚え、体の管理など) ・人の良い部分を見つけ、すぐ取り入れられるような身体能力と柔軟な対応力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験100%(ダンス実技・出席率) 理想のレベル ・オーディションで対面の審査まで通過できる。 ・人の良い部分を見つけ、すぐ自身に取り入れられる身体能力と観察力。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1/1		演習	ウォーミングアップや基礎トレーニングを理解する。	授業内容の復習
1/2		演習	①基礎的な振付を覚える	振りを覚える
1/3		演習	①自分の改善点を見つける	自主練習や動画を確認して修正してくる
1/4		演習	①自分で修正した部分が出ているか理解する	アドバイスを聞き修正してくる
1/5		演習	①1週目との変化を観察する	動画などで自分の姿をチェック
1/6		演習	②振付を覚え、鏡なしで踊る	振りを覚える
1/7		演習	②自分の改善点を見つける	動画などで鏡がない時の姿勢や目線を確認する
1/8		演習	②ペアになり、良い点・気になる点を言い合う	アドバイスを聞き修正してくる
1/9		演習	②鏡なしで自分の思った通りに体を動かせるようになる	動画などで自分の姿をチェック
1/10		演習	③振りを覚える(テストに向けて)	振りを覚える
1/11		演習	③自分の改善点を見つける	テストに向け自主練習
1/12		演習	③仮)テスト	出来た事・出来なかった事を考える
1/13		演習	③テストの振り返りや今後の改善点を見つける	出来た事・出来なかった事を考える
1/14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
1/15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷 / 東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	テーマパークB-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	柳原華奈
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	1/30 2単位		
教員の略歴	サンリオピューロランド(ライブエンターティナー)・東京ディズニーリゾート(ダンサー)						
授業の学習 内容	一年後のテーマパークオーディションに向けて、基礎を大切に、身体技術と表現力を高める。 レオタード、髪型、メイクなどのアドバイス。 自分の優れている部分、苦手な部分を理解して、同じクラスのメンバーと協力しながら高め合って欲しい。						
到達目標	・苦手な部分を理解し、改善方法を見つけ取り組む。(振り覚え、体の管理など) ・人の良い部分を見つけ、すぐ取り入れられるような身体能力と柔軟な対応力を身につける。						
評価方法と基準	定期試験100%(ダンス実技・出席率) 理想のレベル ・オーディションで対面の審査まで通過できる。 ・人の良い部分を見つけ、すぐ自身に取り入れられる身体能力と観察力。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1/1		演習	ウォーミングアップや基礎トレーニングを理解する。	授業内容の復習
1/2		演習	①基礎的な振付を覚える	振りを覚える
1/3		演習	①自分の改善点を見つける	自主練習や動画を確認して修正してくる
1/4		演習	①自分で修正した部分が出ているか理解する	アドバイスを聞き修正してくる
1/5		演習	①1週目との変化を観察する	動画などで自分の姿をチェック
1/6		演習	②振付を覚え、鏡なしで踊る	振りを覚える
1/7		演習	②自分の改善点を見つける	動画などで鏡がない時の姿勢や目線を確認する
1/8		演習	②ペアになり、良い点・気になる点を言い合う	アドバイスを聞き修正してくる
1/9		演習	②鏡なしで自分の思った通りに体を動かせるようになる	動画などで自分の姿をチェック
1/10		演習	③振りを覚える(テストに向けて)	振りを覚える
1/11		演習	③自分の改善点を見つける	テストに向け自主練習
1/12		演習	③仮)テスト	出来た事・出来なかった事を考える
1/13		演習	③テストの振り返りや今後の改善点を見つける	出来た事・出来なかった事を考える
1/14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
1/15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	テーマパークC-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 竹内ゆかり 南山光徳
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師歴15年					
授業の学習 内容	クラシックバレエを基礎としたアイソレーションを繰り返し行い、基礎を身につける。 身体の柔軟性を上げるためのストレッチ。 ターン、ジャンプなどの基本的なテクニック向上のためのクロスフロア。 振り付けを行いカウントで覚えて、その後音楽で踊る。					
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。 オーディション合格に向けて振り覚えのスピードを上げる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	振り付けを覚える	授業内容を自主練習
2		講義・演習	覚えた振りで表現の練習	授業内容を自主練習
3		講義・演習	振りの正しいポジションを確認	授業内容を自主練習
4		講義・演習	新しい振り付けを覚える	授業内容を自主練習
5		講義・演習	それぞれの個性をいかして踊る	授業内容を自主練習
6		講義・演習	それぞれの苦手な所を練習	授業内容を自主練習
7		講義・演習	様々なパターンの振りを覚える	授業内容を自主練習
8		講義・演習	振りで全体的に緩急をつける	授業内容を自主練習
9		講義・演習	振りの中でのテクニックを確認	授業内容を自主練習
10		講義・演習	新たな振り付けを覚える	授業内容を自主練習
11		講義・演習	ターンとジャンプのクオリティー強化	授業内容を自主練習
12		講義・演習	自分にしかできない表現力を考える	授業内容を自主練習
13		講義・演習	新しい振りでテストを行う	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークC-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	竹内ゆかり 南山光徳
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師歴15年						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、 音楽に合わせて踊る。						
到達目標	リズムをしっかりと感じ、個性豊かな創造性を身につける。 プロの世界でも通用するようなダンススキルを習得できることを 目的とする。オーディション合格を目標とする。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	苦手なテクニックを自覚し練習	授業内容を自主練習
2		講義・演習	ターン、ジャンプなど確認	授業内容を自主練習
3		講義・演習	振り付けを覚える	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振りの中でのテクニックの応用	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振りの中での表現力の向上	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振り覚えのスピードを上げる	授業内容を自主練習
7		講義・演習	振りの中での表情をつける	授業内容を自主練習
8		講義・演習	より高度な振りを覚える	授業内容を自主練習
9		講義・演習	オーディションなどでの魅せ方	授業内容を自主練習
10		講義・演習	テクニックの向上練習	授業内容を自主練習
11		講義・演習	集中力の作り方	授業内容を自主練習
12		講義・演習	オーディションでのメンタル	授業内容を自主練習
13		講義・演習	長めの振りでテスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニング A-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務18年 ヴォイストレーナー歴30年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オー디션やステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスペックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びiPad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びiPad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備		
【使用教科書・教材・参考書】				
Visible body/ オリジナルトライ体幹理論/人体模型				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷/東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニング A-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務18年 ヴォイストレーナー歴30年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オー디션やステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスペックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びiPad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びiPad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備		
【使用教科書・教材・参考書】				
Visible body/ オリジナルトライ体幹理論/人体模型				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷/東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニング B-1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 屋間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	
2		演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	ボディマップを正確に理解する	次の講義までに復習を要する
4		演習	筋感覚を意識することで包括的認識力を知る	次の講義までに復習を要する
5		演習	歌唱時の正しい口の形を知る	次の講義までに復習を要する
6		演習	正しい口の形を意識した歌唱が出来る	次の講義までに復習を要する
7		演習	共鳴(頭部)について理解する	次の講義までに復習を要する
8		演習	歌唱前のストレッチから正しい体の使い方のアプローチ方法を知る。	次の講義までに復習を要する
9		演習	AO関節のバランスを取れるようになる(首の無駄な緊張をなくす)	次の講義までに復習を要する
10		演習	腰椎と胸郭のバランス、股関節のバランスを理解する	次の講義までに復習を要する
11		演習	ブレスとリズムの関係性を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	これまでの復習を要する
13		演習	試験総括(改善点を知る)	これまでの復習を要する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニング B-2	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 屋間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り□2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム・日本・6位)□2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催□2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム□日本 1位)□2021年10月「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム・□日本 2位) □2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演□2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして□必要な実践に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインド□も含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	共鳴の仕組み、効果を知る	次の講義までに復習を要する
2		演習	鼻腔共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	頭部共鳴(ヘッドボイス)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
4		演習	母音歌唱を通してメロディのコード感を理解する	次の講義までに復習を要する
5		演習	膝関節と足関節のバランスと体重が伝わる道筋を理解する	次の講義までに復習を要する
6		演習	構造を理解しプレスを改善することで豊かな表現力を習得する	次の講義までに復習を要する
7		演習	胸部共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
8		演習	ビブラートの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
9		演習	ビブラートが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
10		演習	リズムを意識したビブラートを出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	これまでの復習を要する
13		演習	試験総括(改善点を知る)	これまでの復習を要する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷/東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校



科目名	ヴォイストレーニングC-1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	塚脇千賀子 鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	シンガー14年/30年						
授業の学習 内容	1.歌うために必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスとうたは身体の使い方が密接に関係しているので双方にメリットがある 3.この授業を通して歌って踊ってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と発声を細かく一人一人のコンディションに合わせて展開していく						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、発声を矯正しより良いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&Singに必要な呼吸法を学ぶ事によりクオリティの高い歌唱ができるようになる 3.最終的にDance&Singでブレない声と疲れにくい身体とキレのあるダンスができるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリジナル体幹理論による姿勢と発声	コメントシート記入
2		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート記入
3		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
4		講義・演習	音域チェックと発声	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング	コメントシート記入
6		講義・演習	マイキング	コメントシート記入
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入
9		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	コメントシート記入
10		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	コメントシート記入
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	コメントシート記入
12		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	コメントシート記入
13		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	コメントシート記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考】				
オリジナルのトライ体幹理論プリント				

科目名	ヴォイストレーニングC-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	塚脇千賀子 鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	シンガー14年/30年						
授業の学習 内容	1.歌うために必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスとうたは身体の使い方が密接に関係しているので双方にメリットがある 3.この授業を通して歌って踊ってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と発声を細かく一人一人のコンディションに合わせて展開していく						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、発声を矯正しより良いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&Singに必要な呼吸法を学ぶ事によりクオリティの高い歌唱ができるようになる 3.最終的にDance&Singでブレない声と疲れにくい身体とキレのあるダンスができるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリジナル体幹理論による姿勢と発声	コメントシート記入
2		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート記入
3		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
4		講義・演習	音域チェックと発声	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング	コメントシート記入
6		講義・演習	マイキング	コメントシート記入
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入
9		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	コメントシート記入
10		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	コメントシート記入
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	コメントシート記入
12		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	コメントシート記入
13		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	コメントシート記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考】				
オリジナルのトライ体幹理論プリント				

科目名	ヴォイストレーニング D-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	鮎川麻弥
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「機動戦士Z・ガンダム」エンディング・テーマや主題歌、また200曲以上のCMソングを担当するなどヴォーカリストとして活躍中。						
授業の学習 内容	「体感・腹筋・姿勢・呼吸法・発声・滑舌」などの基礎レッスン。課題曲の歌唱及びレクチャー。 アーティストとして、またはキャラを作りながらの「発声・音程・リズム・表現・歌唱テクニック」など、あらゆる角度から指導する。個々の理想を大切にしながら、目標に則した歌唱レッスンを行う。						
到達目標	ボカルの大切な基礎を反復練習することにより「歌う声」とは何か？を理解できるようになる。 「歌える声と体」及び「声優アーティストとしてのメンタル」を持てるようになる。 「趣味としての歌」から「仕事としての歌」へシフトできるようになる。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% 歌唱テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、課題曲ディスカッション、ボイトレ基礎	決まった課題曲の歌詞の準備 歌唱ができるように練習
2		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習
3		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習
4		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習
5		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習
6		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習
7		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習
8		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対する練習 表現をすることを考える
9		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度を チェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対する練習 表現をすることを考える
10		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度を チェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対する練習 表現をすることを考える
11		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度を チェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対する練習 表現をすることを考える
12		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度を チェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対する練習 表現をすることを考える
13		演習	歌唱テスト 発声・音程・リズム・表現	後期に向けた、歌唱への課題を見つける
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 課題曲は最初の授業でアイスアクション選曲。次週その曲の歌詞を各自2部プリントアウトして持参。服装は箱着看。持ち物は筆記用具と飲み物。				

科目名	ヴォイストレーニング D-2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	鮎川麻弥
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「機動戦士Z・ガンダム」エンディング・テーマや主題歌、また200曲以上のCMソングを担当するなどヴォーカリストとして活躍中。						
授業の学習 内容	「体感・腹筋・姿勢・呼吸法・発声・滑舌」などの基礎レッスン。課題曲の歌唱及びレクチャー。 アーティストとして、またはキャラを作りながらの「発声・音程・リズム・表現・歌唱テクニック」など、あらゆる角度から指導する。個々の理想を大切にしながら、目標に則した歌唱レッスンを行う。						
到達目標	ボカルの大切な基礎を反復練習することにより「歌う声」とは何か？を理解できるようになる。 「歌える声と体」及び「声優アーティストとしてのメンタル」を持てるようになる。 「趣味としての歌」から「仕事としての歌」へシフトできるようになる。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% 歌唱テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、課題曲ディスカッション、ボイトレ基礎	決まった課題曲の歌詞の準備 歌唱ができるように練習
2		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
3		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
4		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
5		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
6		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
7		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
8		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
9		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度 をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
10		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度 をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
11		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度 をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
12		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度 をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
13		演習	歌唱テスト 発声・音程・リズム・表現	来年に向けた、歌唱への課題を見つける
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲は最初の授業でアイスカッソン選曲。次週その曲の歌詞を各自2部プリントアウトして持参。服装は褶古着。持ち物は筆記用具と飲み物				

科目名	クリエイション1(ダンス)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	HIYO
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 屋間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター・コレオグラファー・ダンサー・ダンスディレクター・ダンスコーディネーター						
授業の学習 内容	<p>①ダンス関係の職業に着くためには、モラル、団結力、振り付け能力、先見性、習慣性、コミュニケーション能力、ディレクション受け入れ能力、危機管理能力、問題を解決する能力、DANCEのスキルアップ、ステージ経験、リーダーシップ、時間管理能力、積極性……と、多くの能力が必要となるため。</p> <p>②ダンスのオールジャンル……バレエ・JAZZ・コンテンポラリー・HIPHOP・JAZZHIPHOP・ガールズHIPHOP・KPOP・R&amp;B・インストラクターなど……</p> <p>全てのジャンルが作品作りに役立つ為、全ての科目に関係します。</p> <p>③このCreationに参加し、ダンス関係の仕事が出来る人材になれるよう、多くの事を学んで欲しい。</p>						
到達目標	<p>上記の必要条件を求められる中、自由でありながらキチンと縛りのある環境の中で、自分達の求める人と求める曲で求める作品を作っていく。時には縛りのある作品を求められることも……</p> <p>自己満足で終わらない、観客の求めるニーズのある作品とは何かを、少しずつ苦しみながら楽しみながらわかっていく、とてもクリエイティブな時間である。その題材を通してディレクションを受けながら、人との関わり方や、ステージでの見せかたを学んでいく。□</p>						
評価方法と基準	<p>イベント本番作品チェックでの採点……45%</p> <p>出席率……50%</p> <p>その他(役割・振り付けなど積極性)……5%</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Creationでのルール、業界でのモラル、決まり、心得などについての講義。リーダー決定の話し合い。	持ち物……Creationノートを作成し、持参し、メモを取る習慣を必ず身につける。
2		講義・演習	学園祭のコンセプト、求められる作品について指導。チーム・作品のテーマ・曲を決める。	前回の復習
3		講義・演習	自主練・アイデアの出し合い・選曲や編集の確認・作品確認・コンセプトの報告。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
4		講義・演習	ディレクションのやり方、注意点、学ぶべき点の指導。シューミレーションにて速やかな団体行動の指導。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
5		講義・演習	チームごとにディレクション・作品指導を行う。この作業を学園祭本番までやっていきます。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
6		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
7		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
8		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
9		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
10		講義・演習	教務の先生方による作品チェックがあります。	チームでの練習(リハーサル)
11		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出についての指導。	チームでの練習(リハーサル)
12		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出についての指導。	チームでの練習(リハーサル)
13		講義・演習	学園祭反省会。We Areのテーマ決め。	授業を通しての復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイション2(ダンス)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	HIYO
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター・コレオグラファー・ダンサー・ダンスディレクター・ダンスコーディネーター						
授業の学習 内容	①ダンス関係の職業に着くためには、モラル、団結力、振り付け能力、先見性、習慣性、コミュニケーション能力、ディレクション受け入れ能力、危機管理能力、問題を解決する能力、DANCEのスキルアップ、ステージ経験、リーダーシップ、時間管理能力、積極性……と、多くの能力が必要となるため。 ②ダンスのオールジャンル……パレエ・JAZZ・コンテンポラリー・HIPHOP・JAZZHIPHOP・ガールズHIPHOP・KPOP・R&B・インストラクターなど…… 全てのジャンルが作品作りに役立つ為、全ての科目に関係します。 ③このCreationに参加し、ダンス関係の仕事が出来る人材になれるよう、多くの事を学んで欲しい。						
到達目標	上記の必要条件を求められる中、自由でありながらキチンと縛りのある環境の中で、自分達の求める人と求める曲で求める作品を作っていく。時には縛りのある作品を求められることも…… 自己満足で終わらない、観客の求めるニーズのある作品とは何かを、少しずつ苦しみながら楽しみながらわかっていく、とてもクリエイティブな時間である。その題材を通してディレクションを受けながら、人との関わり方や、ステージでの見せかたを学んでいく。□						
評価方法と基準	イベント本番作品チェックでの採点……45% 出席率……50% その他(役割・振り付けなど積極性)……5%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	WE AREのチームコンセプトのプレゼン	持ち物……Creationノートを作成し、持参し、メモを取る習慣を必ず身につける。
2		講義・演習	コンセプト決定のチームから曲選考。講師から曲のOKをもらったら振り付けを開始する。	前回の復習
3		講義・演習	作品作成・アイデアの出し合い・選曲や編集の確認・作品確認をしていく。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
4		講義・演習	ディレクションのやり方、注意点、学ぶべき点の指導。シューミレーションにて速やかな団体行動の指導	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
5		講義・演習	チームごとにディレクション・作品指導を行う。この作業をWE ARE本番までやっていきます。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
6		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
7		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
8		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
9		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
10		講義・演習	教務の作品チェック	チームでの練習(リハーサル)
11		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出に関しての指導。	チームでの練習(リハーサル)
12		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出に関しての指導。	チームでの練習(リハーサル)
13		講義・演習	全体通しリハーサルなど	授業を通しての復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	LAE
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	韓国にてグループアイドルとして活動。その後はソロアーティストとして活躍。						
授業の学習 内容	K-POPヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	K-POP音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	K-POP歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	K-POP歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	K-POPパフォーマンスの緩急を表現できる	K-POPパフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	K-POPパフォーマンスの緩急を表現できる	K-POPパフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	K-POP2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	LAE
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	韓国にてグループアイドルとして活動。その後はソロアーティストとして活躍。						
授業の学習 内容	Korean Music ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	K-POP音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	K-POP歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	K-POP歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	K-POPパフォーマンスの緩急を表現できる	K-POPパフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	K-POPパフォーマンスの緩急を表現できる	K-POPパフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	BREAKIN1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎浩太郎
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年						
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		演習	基本的なステップムーブの習得・実践	各自授業内容を復習
3		演習	チェアー・スピンの習得・実践	各自授業内容を復習
4		演習	トップロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		演習	フリーズの種類を習得・実践	各自授業内容を復習
9		演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステップイン)の実践	各自授業内容を復習
11		演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	BREAKIN2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。必要なメソッドの習得、またソアアプローチやインプロテクニクを学ぶ					
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		演習	基本的なステップムーブの習得・実践	各自授業内容を復習
3		演習	チェアー・スピンの習得・実践	各自授業内容を復習
4		演習	トップロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		演習	フリーズの種類を習得・実践	各自授業内容を復習
9		演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステップイン)の実践	各自授業内容を復習
11		演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	POP 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野恭平
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	<p>* 実務経験(Dance &amp; Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り</p> <p>2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&amp;B/ソウルトップアルバム・日本・6位)</p> <p>2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催</p> <p>2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&amp;B/ソウルトップアルバム)日本 1位)</p> <p>2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&amp;B/ソウルトップレグ・日本2位)</p> <p>2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&amp;Dance講師を行なっている。)</p>						
授業の学習内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、またソロアプローチやインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヒットが実践できる	各自授業内容を復習
2		演習	ダイムストップが実践できる	各自授業内容を復習
3		演習	ハンドウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
4		演習	ボディウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
5		演習	キングコブラが実践できる	各自授業内容を復習
6		演習	ティックキングが実践できる	各自授業内容を復習
7		演習	フローティングが実践できる	各自授業内容を復習
8		演習	ブガルーリズムが実践できる	各自授業内容を復習
9		演習	ブガルーステップが実践できる	各自授業内容を復習
10		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
11		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
12		演習	インプロが実践できる	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	POP 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野恭平
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部2	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	<p>* 実務経験(Dance &amp; Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り</p> <p>2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&amp;B/ソウルトップアルバム・日本・6位)</p> <p>2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催</p> <p>2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&amp;B/ソウルトップアルバム日本1位)</p> <p>2021年10月「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&amp;B/ソウルトップアルバム日本2位)</p> <p>2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&amp;Dance講師を行なっている。)</p>						
授業の学習内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヒットが実践できる	各自授業内容を復習
2		演習	ダイムストップが実践できる	各自授業内容を復習
3		演習	ハンドウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
4		演習	ボディウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
5		演習	キングコブラが実践できる	各自授業内容を復習
6		演習	ティックングが実践できる	各自授業内容を復習
7		演習	フローティングが実践できる	各自授業内容を復習
8		演習	ブガルーリズムが実践できる	各自授業内容を復習
9		演習	ブガルーステップが実践できる	各自授業内容を復習
10		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
11		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
12		演習	インプロが実践できる	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HOUSE1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を正しく理解し、HIP HOPなどにも共通するリズムやアームス、ボディコントロールなどを使いこなせるようにする					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>HOUSEのベーシックな動き(体の止め方)を習得すること</li> <li>HOUSE特有のスピード感、タメ、止めを体現すること</li> </ul>					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎①(ベーシックムーブ)	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE基礎②(ベーシックムーブ応用)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	リズム&アイソレーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	リズム&ベーシックムーブ	各自授業内容を復習
5		講義・演習	コンビネーション	各自授業内容を復習
6		講義・演習	”遊び”を混ぜる	各自授業内容を復習
7		講義・演習	フロアを混ぜる	各自授業内容を復習
8		講義・演習	アクロバットを混ぜる	各自授業内容を復習
9		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		YoutubeなどでHOUSEを観る。知る。触れる。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HOUSE2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩崎浩太郎
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年					
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を使い、個性的に踊りこなせるように指導をする					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振付は勿論、フリーでもHOUSEを踊れるようにすること</li> <li>・様々曲調に対応したHOUSEができるようになること</li> </ul>					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎の復習	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	HOUSE応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		講義・演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	HOUSE基礎～応用	各自授業内容を復習
9		講義・演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	渡辺裕子
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧に行ってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	渡辺裕子
学科・専攻	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧に行ってしっかり体づくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習		
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習		
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習		
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習		
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習		
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習		
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習		
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習		
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習		
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習		
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習		
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習		
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習		欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる				
【使用教科書・教材・参考書】						



科目名	パントマイム1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江ノ上 陽 一
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	パントマイム歴 35年						
授業の学習 内容	パントマイムとは言語という具象行為を意図的に廃し言葉さえも肉体化する芸術である。それは、日常全ての言語を肉体化するという事。そのためには肉体の緊張と弛緩、分解、重心移動、動くスピードのコントロールなどを習得する事が必須である。また、肉体訓練を継続して行い、演技者として人前に立つ為に不可欠な、想いを表現できる身体の獲得を目指す。同時に、観察を基に無意識な日常行動における身体的動作の認識作業を行い、「動き」に「想い」を込め、独自の魅力的な所作を手に入れる。基本的なテクニックを身につけた上で、「無声」、「何も無い空間」という状況の中で、想像力を駆使し身体だけの表現を体現出来るようにする。						
到達目標	正確なパントマイムテクニックの習得、また自由に型破りな想像力を獲得できるようになる。身体だけで言葉を使わずに、自分の「想い」を他者に伝えることができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体訓練、マイムウォーク、ロボット	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
2		講義・演習	身体訓練、胸のコントラクション、体重移動、表情のスピーディーな変化、マイムウォーク	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
3		講義・演習	身体訓練、胸のコントラクション、体重移動、表情のスピーディーな変化、マイムウォーク	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
4		講義・演習	身体訓練、胸のコントラクション、体重移動、表情のスピーディーな変化、マイムウォーク、ロボット	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
5		講義・演習	身体訓練、体重移動、表情の研究、マイムウォーク、ロボット	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
6		講義・演習	身体訓練、体重移動、表情の研究、マイムウォーク、ロボット	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
7		講義・演習	身体訓練、マイムウォークとロボット組み合わせによる場面の变化の習得	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
8		講義・演習	身体訓練、ストーリーの中のマイムウォーク、ロボットのオリジナル振付	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
9		講義・演習	身体訓練、決められた音楽、時間内でマイムウォークとロボットのテクニックを使った作品創作	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
10		講義・演習	実技テスト	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
11		講義・演習	実技テストでのパフォーマンス再演	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
12		講義・演習	実技テストでのパフォーマンス再演	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
13		講義・演習	身体訓練、壁のテクニックの基本	振付したマイムを練習し、精度をあげる動画を撮影し、研鑽する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は使用しない。動きやすい服装、ダンススニーカーで出席のこと。

科目名	パントマイム2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江ノ上 陽 一
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	パントマイム歴 35年						
授業の学習 内容	パントマイムとは言語という具象行為を意図的に廃し言葉さえも肉体化する芸術である。それは、日常全ての言語を肉体化すること。そのためには肉体の緊張と弛緩、分解、重心移動、動くスピードのコントロールなどを習得する事が必須である。また、肉体訓練を継続して行い、演技者として人前に立つ為に不可欠な、想いを表現できる身体の獲得を目指す。 同時に、観察を基に無意識な日常行動における身体的動作の認識作業を行い、「動き」に「想い」を込め、独自の魅力的な所作を手に入れる。基本的なテクニックを身につけた上で、「無声」、「何も無い空間」という状況の中で、想像力を駆使し身体だけの表現を体現出来るようにする。						
到達目標	正確なパントマイムテクニックの習得、また自由で型破りな想像力を獲得できるようになる。 身体だけで言葉を使わずに、自分の「想い」を他者に伝えることができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	身体訓練、壁のテクニックの応用	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
2		講義・演習	身体訓練、壁のテクニックの応用	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
3		講義・演習	身体訓練、壁のテクニックにドアーテクニックを追加 する	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
4		講義・演習	身体訓練、壁のテクニックにドアーテクニックを追加 する	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
5		講義・演習	身体訓練、決められた時間内で壁のテクニックを使用し ストーリーを完成させる	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
6		講義・演習	身体訓練、固定点のテクニックの習得	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
7		講義・演習	身体訓練、固定点のテクニックの応用	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
8		講義・演習	身体訓練、決められた時間内にて固定点のテクニ クを使用しパフォーマンスを作り上げる	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
9		講義・演習	身体訓練、決められた時間内にて固定点のテクニ クを使用しパフォーマンスを作り上げる	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
10		講義・演習	実技試験	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
11		講義・演習	実技試験でのパフォーマンスの再演	振付したマイムを練習し、精度をあげる 動画を撮影し、研鑽する		
12		講義・演習	実技試験でのパフォーマンスの再演	内容は授業内で発表		
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は使用しない。動きやすい服装、ダンススニーカーで出席のこと。

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	ミュージカルゼミ1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 有名ミュージカルより抜粋した課題を通しての実践練習。						
到達目標	1年生においては基礎を築くことを基盤に置き、基本的な発声、科少量、演技力、ダンス力を身につけることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験における結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸法、母音について説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 説明	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 説明	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージカル 『コーラスライン』 『WICKED』				

科目名	ミュージカルゼミ2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 有名ミュージカルより抜粋した課題を通しての実践練習。						
到達目標	1年生においては基礎を築くことを基盤に置き、基本的な発声、科少量、演技力、ダンス力を身につけることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験における結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸法、母音について説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 説明	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 説明	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演劇ワークショップ 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	様々に変化する現在の芸能界における俳優としての立ち振る舞いと、必要とされる「演技力」を知る。 以上を踏まえ、あらゆる現場でのびのびと表現と演技ができるようになるための基礎力をつける。						
到達目標	演技の基礎である、「自分自身を知ること」「他者の気持ちを慮ること」「自らの『心、声、体』を 自在に使いこなすこと」この3つ取っ掛かりを掴めるようになる。 演技に興味を持ち、幅広いジャンルの演技や映画やアニメなどに自主的に触れられるようになる。 身の回りの心動く出来事にワクワクできる柔らかい感性を持てるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	俳優と演技について思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
2		講義・演習	実際に演技に触れてみる	授業内の発表に向けた自主稽古		
3		講義・演習	実技発表を通して、演技を思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
4		講義・演習	演技をブラッシュアップする	授業内の発表に向けた自主稽古		
5		講義・演習	台本に触れる	授業内の発表に向けた自主稽古		
6		講義・演習	発表を通して役作りと演技を思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
7		講義・演習	台本をブラッシュアップする	授業内の発表に向けた自主稽古		
8		講義・演習	役作りとは？	授業内の発表に向けた自主稽古		
9		講義・演習	心を動かす	授業内の発表に向けた自主稽古		
10		講義・演習	他者と演技するという事	授業内の発表に向けた自主稽古		
11		講義・演習	ここまででやったことを踏まえた演技発表	授業内の発表に向けた自主稽古		
12		講義・演習	演技発表してのフィードバックからの、さらなる研鑽	授業内の発表に向けた自主稽古		
13		講義・演習	発表 進級公演(後期)課題の発表と方向性について	授業内の発表に向けた自主稽古		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

配布台本・ノート・筆記用具

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	演劇ワークショップ 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	進級公演課題を通し、自分のキャラクターを知る。 様々に変化する現在の芸能界における俳優としての立ち振る舞いと、必要とされる「演技力」を知る。 以上を踏まえ、あらゆる現場でのびのびと表現と演技ができるようになるための基礎力をつける。						
到達目標	進級公演の課題を通し、「自分自身を知ること」「他者の気持ちを慮ること」「自らの『心、声、体』を自在に使いこなすこと」この3つの 取っ掛かりを掴めるようになる。 演技に興味を持ち、幅広いジャンルの演技や映画やアニメなどに自主的に触れられるようになる。 身の回りの心動く出来事にワクワクできる柔らかい感性を持てるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	台本をもらったら	授業内の発表に向けた自主稽古		
2		講義・演習	役作りとは？	授業内の発表に向けた自主稽古		
3		講義・演習	相手役との芝居とは	授業内の発表に向けた自主稽古		
4		講義・演習	全体の流れを掴む	授業内の発表に向けた自主稽古		
5		講義・演習	ラストシーンから、自分の役割を思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
6		講義・演習	通し稽古から全体像を掴む	授業内の発表に向けた自主稽古		
7		講義・演習	抜き稽古で、体に芝居をなじませる	授業内の発表に向けた自主稽古		
8		講義・演習	等身大の感情を超える	授業内の発表に向けた自主稽古		
9		講義・演習	お客様に魅せる演技とは？	授業内の発表に向けた自主稽古		
10		講義・演習	発表に向けての詰め稽古	授業内の発表に向けた自主稽古		
11		講義・演習	発表に向けての詰め稽古	授業内の発表に向けた自主稽古		
12		講義・演習	演技発表してのフィードバックからの、さらなる研鑽	内容は授業内で発表		
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

配布台本・ノート・筆記用具

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	日本舞踊1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	五條翠蝶
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	久世光彦氏・木村光一氏・佐藤信氏演出作品等、数々の舞台やミュージカルに出演。 女優業は福沢亜希子の名で活動。現在は都内芸能養成所・高校等でダンスインストラクターも務める。						
授業の学習 内容	日本舞踊を通じて、伝統芸能、和服の所作を学ぶ。 役の年齢よっての着付け、所作の違いを学ぶ。 小曲「白扇」の振りを勉強し、日本舞踊の基本動作を学ぶ。						
到達目標	浴衣の着付けが、自身と他人、両方できるようになる。 古典舞踊、新舞踊を知ることが出来る。 和服でのスチール撮影、時代劇で生かせる所作を学ぶ事ができる。 男女問わず、男踊り・女踊りを経験することにより、男らしい・女らしい所作を身につけることが出来る。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	浴衣の着付け、たたみ方	浴衣をきれいに着れるようになる
2		講義・演習	浴衣の着付け、挨拶、摺り足	浴衣をスピーディーに着れるようになる
3		講義・演習	「白扇」1 舞扇の名称について	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
4		講義・演習	「白扇」2 扇子を使った所作	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
5		講義・演習	「白扇」3 浴衣着付けテスト	振りの練習
6		講義・演習	「白扇」4 前週の復習・男踊りの基本の足さばき	振りの練習
7		講義・演習	「白扇」5 前週の復習・基本に忠実に踊る	振りの練習
8		講義・演習	「白扇」6 前週の復習・反復練習	振りの練習
9		講義・演習	「白扇」7 前週の練習・細かな表現と基礎	振りの練習
10		講義・演習	「白扇」8 男踊り、女踊りについて	振りの練習
11		講義・演習	「白扇」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
12		講義・演習	新舞踊1 自分の表現とは	振りを練習してくる
13		講義・演習	新舞踊2 基礎を重視した個性について	所作の確認
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			自主練を行い、踊りを研鑽すること 日本舞踊などの日本の伝統芸能に触れていくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 (自分で用意)浴衣・帯・下着・足袋 (学校で用意)扇子				

科目名	日本舞踊2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	五條翠蝶
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	久世光彦氏・木村光一氏・佐藤信氏演出作品等、数々の舞台やミュージカルに出演。 女優業は福沢亜希子の名で活動。現在は都内芸能養成所・高校等でダンスインストラクターも務める。						
授業の学習 内容	日本舞踊を通じて、伝統芸能、和服の所作を学ぶ。 役の年齢によつての着付け、所作の違いを学ぶ。 小曲「白扇」の振りを勉強し、日本舞踊の基本動作を学ぶ。						
到達目標	浴衣の着付け、古典舞踊、新舞踊を知ること自身の知識として扱えるようになる。 和服でのスチール撮影、時代劇で生かせる所作を学び、自身のスキルとして扱えるようになる。 男女問わず、男踊り・女踊りを経験することにより、男らしい・女らしい所作を身につけられるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「江戸まつり」1 前半部分振り入れ	浴衣をスピーティーに着れるようになる 振りの練習
2		講義・演習	「江戸まつり」2 後半部分振り入れ	浴衣をスピーティーに着れるようになる 振りの練習
3		講義・演習	「江戸まつり」3 全体を通して細かな確認	振りの練習
4		講義・演習	「江戸まつり」4 粋に踊る	振りの練習
5		講義・演習	「江戸まつり」5 間を感じて表現する	振りの練習
6		講義・演習	「江戸まつり」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
7		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」1 女踊りの所作・振り入れ	振りを練習してくる
8		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」2 表現を感じながら踊る	振りを練習してくる
9		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
10		講義・演習	創作舞踊1 現代曲と日本舞踊	振りの練習
11		講義・演習	創作舞踊2 基本を重視した自分らしい表現について	振りの練習
12		講義・演習	“創作舞踊3 1年を通じて踊った作品を披露する”口	
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			自主練を行い、踊りを研鑽すること 日本舞踊などの日本の伝統芸能に触れていくこと	
【使用教科書・教材・参考書】				
浴衣・帯・足袋・扇子				



科目名	アクティング基礎1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	自身の感性を扱う「俳優」という職業を、実際に行われているトレーニングを通して追体験することで、自己評価の再確認と、コミュニケーション能力を磨く。本授業はワークショップ形式で、随時自らが体験していく。						
到達目標	演技をする上で必要なコミュニケーションをとり、他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができるようになる 想像力を使い、指定された状況・設定の中で自分として存在することができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介ゲーム、あなたわたしゲーム(説明及び体験)、ポーズ回しゲーム(説明及び体験)、名前呼びゲーム(説明及び体験)、名前鬼ゲーム(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに存在することができる。
2		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、ポーズ回しゲーム(実践)、リズムしりとりゲーム(説明及び体験)、リズム連想ゲーム(説明及び体験)、名前鬼ゲーム(実践)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに存在することができる。
3		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践)、ひとりにならないでゲーム(説明及び体験)、職業当てゲーム(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに声を出したり相手の目を見ることができる。
4		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、ひとりにならないでゲーム(実践)、職業当てゲーム(実践)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに声を出したり相手の目を見ることができる。
5		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、イエスアンドゲーム(説明及び体験)、そうしようゲーム(説明及び体験)、セリフを使ったキャッチボール(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、円滑にコミュニケーションがとれる(恥ずかしがらずに声を出したり笑顔になることができる)
6		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、イエスアンドゲーム(説明及び体験)、そうしようゲーム(説明及び体験)、セリフを使ったキャッチボール(説明及び体験)、あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、そうしようゲーム(実践及び応用)、なにやってるのゲーム(説明及び体験)、セリフを使ったキャッチボール(実践)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、円滑にコミュニケーションがとれる(恥ずかしがらずに声を出したり笑顔になることができる)。
7		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、かゆいところ当て(説明及び体験)なにやってるのゲーム(実践及び応用)、五感を呼び覚ますエクササイズ(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。五感を使って、(自分よりも優先して)環境や他者を感じることができる。
8		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、して欲しいこと当てゲーム(説明と体験)五感を呼び覚ますエクササイズ(実践及び応用)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。五感を使って、(自分よりも優先して)環境や他者を感じることができる。
9		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、ミラーエクササイズ(説明と体験)五感を呼び覚ますエクササイズ(実践及び応用)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。五感を使って、(自分よりも優先して)環境や他者を感じることができる。
10		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(説明及び体験)セリフのないシーン1(説明及び実践/皆の前で一人一人実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、緊張せずに、一人で、存在することができる。
11		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(実践)セリフのないシーン2(説明及び実践/皆の前で一人一人実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、緊張せずに、一人で、存在することができる。
12		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(実践)セリフのないシーン2(説明及び実践/皆の前で一人一人実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができる。
13		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(実践)ショートシーン2(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		都度講義内容の振り返り・次回講義に向けての課題を指示する		
【使用教科書・教材・参考書】				
配布されたテキスト、筆記用具、動きやすい服装で参加				

科目名	アクティング基礎2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	自身の感性を扱う「俳優」という職業を、実際に行われているトレーニングを通して追体験することで、自己評価の再確認と、コミュニケーション能力を磨く。本授業はワークショップ形式で、随時自らが体験していく。						
到達目標	演技をする上で必要コミュニケーションをとり、他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができるようになる。想像力を使い、指定された状況・設定の中で自分として存在することができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	センスワーク、オブジェクトワーク、ファーストインプレッション	前期の復習 環境を五感で感じることができる。		
2		講義・演習	センスワーク、インディペンデントアクティビティ、レベテション	自意識を排除してパートナーを感じることができる。		
3		講義・演習	プライベートモーメント	喜怒哀楽といった感情を自分として体験することができる。		
4		講義・演習	インプロ(なにやってるのゲーム)、ショートシーン(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	演技を実践するにあたり、常に「目的」と「アクション」を設定することができる。 台本の読み込み		
5		講義・演習	インプロ(なにやってるのゲーム)、ショートシーン(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	演技を実践するにあたり、常に「目的」と「アクション」を設定することができる。 台本の読み込み		
6		講義・演習	インプロ(なにやってるのゲーム)、ショートシーン(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	演技を実践するにあたり、常に「目的」と「アクション」を設定することができる。 台本の読み込み・練習		
7		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。 台本の読み込み・練習		
8		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。		
9		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践/皆の前でペアごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。 感情を思い起こして、リアルな表現を行えるようになる。		
10		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践/皆の前でグループごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。 感情を思い起こして、リアルな表現を行えるようになる。		
11		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践/皆の前でグループごとに実施)	自分らしくショートシーンをこなす、リアルな演技を行えるようになる。 相手とのコミュニケーションをとり、嘘のないシーンづくりを目指す。		
12		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践/皆の前でグループごとに実施)	自分らしくショートシーンをこなす、リアルな演技を行えるようになる。 相手とのコミュニケーションをとり、嘘のないシーンづくりを目指す。		
13		講義・演習	海外実学研修を通じ、海外の演技法と日本の演技法を比較検討する。ワークの実践	自分らしくショートシーンをこなす、リアルな演技を行えるようになる。 相手とのコミュニケーションをとり、嘘のないシーンづくりを目指す。		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習		都度講義内容の振り返り・次回講義に向けての課題を指示する				

【使用教科書・教材・参考書】

配布されたテキスト、筆記用具、動きやすい服装で参加

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	声優基礎1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	世田 杏恵
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	声優・俳優。1996年より活動。有限会社銀プロダクション社長。声優として「デジモンセイバーズ」サイバードラモン役、「バズライトイヤー」など多数。						
授業の学習 内容	声優に必要な心構えや考え方、マナー、演技の基礎を学ぶ。 2年生から実施されるアフレコ演習に向けて、台本の基礎知識と、キャラクターに応じた適切な表現を学ぶ。 感情を開放し、自己の先にある表現を身に着けるためのトレーニングを学ぶ。						
到達目標	「声優」という職業に必要な考え方、スキル、表現力を身に付ける。自分の声を知り、適切な役が演じられるようになる。 そのために必要な発声滑舌スキルを自身のものとして扱えるようになる。 声優に必要な「好感度の高い」対人コミュニケーション力とマナーを身につけ扱えるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	自己紹介、自己PR	好きな声優がどのような作品・役を演じるかを知る		
2		講義・演習	感情解放① 「恥ずかしさ」を乗り越える	感情解放ワークを日常的に取り入れてみる		
3		講義・演習	感情解放② 人前で表現することを知る	感情解放ワークを日常的に取り入れてみる		
4		講義・演習	感情解放③ 実体験を思いだし、表現する	感情解放ワークを日常的に取り入れてみる フリートークテーマについて考える		
5		講義・演習	フリートーク① 初めてのフリートーク演習	フリートークテーマについて研究する		
6		講義・演習	エチュード① 初めてのエチュード演習	即興で演じることを仲間たちと日常的に行ってみる		
7		講義・演習	実演① 課題に対して表現を行う	次週に向けて、さらに表現を磨く		
8		講義・演習	実演② ディレクション(演出)を受ける	ディレクションの意味を理解するため、研鑽を行う		
9		講義・演習	フリートーク② テーマに応じたフリートーク	フリートークのコツをつかむ 好きな声優のトークショー動画を見て研鑽を行う		
10		講義・演習	エチュード② テーマに応じたエチュード	共演者の表現を感じ、自分の立ち位置を鑑みる		
11		講義・演習	台本読解、立体化① アフレコ台本の配布、読み方について	台本を読みこんでくる		
12		講義・演習	台本読解、立体化① アフレコ台本の配布、読み方について	台本を読みこんでくる テスト課題の準備		
13		講義・演習	フリートーク、実演、振り返り、総括	後期に向けた自身の課題と、「やりたいこと」「できること」の違いに気づく		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習		母音法の練習を実施する				

【使用教科書・教材・参考書】

ノート、筆記用具

科目名	声優基礎2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	世田 杏恵
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	声優・俳優。1996年より活動。有限会社銀プロダクション社長。声優として「デジモンセイバーズ」サイバードラモン役、「バズライトイヤー」など多数。						
授業の学習 内容	声優に必要な心構えや考え方、マナー、演技の基礎を学ぶ。 2年生から実施されるアフレコ演習に向けて、台本の基礎知識と、キャラクターに応じた適切な表現を学ぶ。 感情を開放し、自己の先にある表現を身に着けるためのトレーニングを学ぶ。						
到達目標	「声優」という職業に必要な考え方、スキル、表現力を身に付ける。自分の声を知り、適切な役が演じられるようになる。 そのために必要な発声滑舌スキルを自身のスキルとして扱えるようになる。 声優に必要な「好感度の高い」対人コミュニケーション力とマナーを身につけ扱えるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	フリートーク③ 後期の意気込み、最近あったことについて	前期からの自分の成長に気づく
2		講義・演習	台本読解、立体化③ 自分が不足している技術に気づく	不足を感じているところを磨く(発声・滑舌・キャラクター研究)
3		講義・演習	台本読解、立体化④ 自身にしか演じられない役に気づく	「やりたいこと」「できること」の違いに気づく
4		講義・演習	台本チェンジ 読解、立体化⑤キャラクター考察	キャラクターを考察し、先輩声優から研究する
5		講義・演習	台本読解、立体化⑥ ディレクションを踏まえた立体化	距離感を踏まえた表現の練習
6		講義・演習	台本読解、立体化⑦ 台本に書かれた内容を考察する	感情を踏まえた表現の練習
7		講義・演習	台本読解、立体化⑧ 心の距離感について	距離感、感情を踏まえた表現の練習
8		講義・演習	台本読解、立体化⑨ 演じるキャラクターの立ち位置について	キャラクターの個性を踏まえた表現の練習
9		講義・演習	台本読解、立体化⑩ キャストイングを受ける	ここまで実践してきたことを踏まえた表現の練習
10		講義・演習	フリートーク、実演① キャストイングを受け、消化する	キャストイングされた意味を考え、演じる
11		講義・演習	台本読解、立体化⑪ ディレクションの意味	ここまで実践してきたことを踏まえた表現の練習
12		講義・演習	フリートーク、実演② 客観的視点を持ち演じられるようになる	自分の中での事前準備を当たり前に行う
13		講義・演習	台本読解、立体化⑫ 振り返り、総括	ここまで実践してきたことを踏まえた表現の練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			母音法の練習を実施する	

【使用教科書・教材・参考書】

ノート、筆記用具

科目名	ナレーション 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	長谷川歩
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	子役・俳優・劇団主宰・ナレーター 大沢事務所所属27年 DA TOKYO講師歴7年目						
授業の学習 内容	声優のキャリアの幅でアニメーションだけでなく、ラジオCM、TVCM、ニュース番組、バラエティ番組、ドキュメント番組、など多岐に渡って活躍の場があるのがナレーションです。収録、ヒアリング、ディスカッションを繰り返すレッスンをし、卒業後はシームレスに活躍できるように目指します。						
到達目標	ナレーションにおける演技の基礎、概念、やりがい理解できるようになる。						
評価方法と基準	通常授業で取り組んでいる個人個人の課題で加点しつつ、期末にテストをします						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、ナレーションのレクチャー原稿探しのポイントなど。ナレーションの世界に触れることができる。	準備・参考映像(ニュース、バラエティ、CMなど)観賞/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
2		講義・演習	ナレーション実技① 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿②を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
3		講義・演習	ナレーション実技② 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿②を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
4		講義・演習	ナレーション実技② 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿②を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
5		講義・演習	ナレーション実技③ 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿③を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
6		講義・演習	ナレーション実技④ 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿③を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
7		講義・演習	ナレーションの理解と適正① 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・1コマ目でアナウンスした、自分の好きな「ニュース、小説、歌詞、詩、など」から2編用意。※授業前日までに提出すること/課題・通例の学んだこと、発見、できたことを記入
8		講義・演習	ナレーションの理解と適正② 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
9		講義・演習	ナレーションの理解と適正③ 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
10		講義・演習	ナレーションの理解と適正④ 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
11		講義・演習	ナレーションの理解と適正⑤ 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
12		講義・演習	ナレーションの理解と適正⑥ 自身で選んだ原稿を音読し、読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
13		講義・演習	<期末テスト>録音して聴いてみる～前期まとめ	準備・原稿の練習/課題・前期の授業を通して学んだことをまとめて記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ナレーション2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	長谷川歩
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	子役、演劇大学を経て声優・ナレーターとして活動。劇団主宰もしており演出、執筆経歴もあり。芸歴23年						
授業の学習 内容	正しい日本語を学び、ナレーション原稿を読むことで、原稿の意図や自己演出で試行錯誤する。CM、ラジオCM、バラエティ、ドキュメント、ニュース、吹き替え、朗読など多岐に渡るナレーションの模擬演習を行い、適性やチャレンジ精神を育みます。						
到達目標	正しい日本語の基礎、文章の読解力、演技力を用いて、自分の声質やパーソナリティを含んだ適性を掴めるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「架空のラジオCM」を作成するためエチュードを行う	題材についてヒアリング
2		講義・演習	エチュードを元に原稿作成① グループで話し合う	どんなCMにするか話し合う
3		講義・演習	エチュードを元に原稿作成② 話し合った内容の起承転結を考える	プロットを描く
4		講義・演習	エチュードを元に原稿作成③ 演じるキャラクターとナレーション部を考える	台本を完成させる
5		講義・演習	原稿を用いキャストイングし録音、演出指導。① 録音したCMを聞き、改良点を話し合う	収録音源を聞く
6		講義・演習	原稿を用いキャストイングし録音、演出指導。② 聞き手にわかりやすく伝わる表現について考える	収録音源を聞き、チームでディスカッション 収録に向けて準備をする
7		講義・演習	録音、編集① 編集されることを考えた収録について	収録に向けて準備をする
8		講義・演習	録音、編集② 短い時間で高いクオリティのCMを収録するためには	収録で感じたことを踏まえ、現在放送されているラジオ CMを聞く
9		講義・演習	録音し編集した完成パッケージを視聴しヒアリング	聴いた音源に対して客観的に修正点を理解できるよう になる
10		講義・演習	映像に当てるナレーションの講義、題材紹介	映像とラジオCMの違いについて学び、実際の映像を 見、研究する
11		講義・演習	映画予告、ドキュメント、ニュース、バラエティなど演習① あらゆるナレーションにチャレンジ	状況に応じたナレーションの違いに気づく
12		講義・演習	“映画予告、ドキュメント、ニュース、バラエティなど演習② 自分に適性の高いナレーションを知る”□	状況に応じたナレーションの違いに気づく
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
指定されたナレーション原稿、朗読台本を用意すること				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優 & 舞台芸術専門学校

科目名	殺陣1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	2000年より役者として活動。株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「テニスの王子様」「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	立ちっぱなし、座りっぱなしで演技は出来ません。転んだり、倒れたり、突き飛ばされたりといった動きを怪我無く何度も繰り返し演じなければならぬことは数多くあります。マットを使って転がり方から身の守り方である受け身の取り方を身に付けます。						
到達目標	倒れる、倒す演技を安全かつ臨場感を失うことなく演じることが出来る様になる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	注意事項説明、自己紹介(将来のイメージづくり)、アクションとは…、	柔軟、筋トレ
2		講義・演習	マット運動(前転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
3		講義・演習	マット運動(右起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
4		講義・演習	マット運動(左起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
5		講義・演習	マット運動(右受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
6		講義・演習	マット運動(左受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
7		講義・演習	マット運動(横転)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
8		講義・演習	マット運動(後転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
9		講義・演習	マット運動(アクション用後転)、突き飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
10		講義・演習	受け身、起き上がり、横転の組み合わせ	前週の復習、柔軟、筋トレ
11		講義・演習	その場に崩れ落ちる、倒れる	前週の復習、柔軟、筋トレ
12		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
13		講義・演習	取っ組み合い、揉み合いを演じてみよう	前週の復習、柔軟、筋トレ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			興味のある声優のボイスサンプルを各事務所ホームページから試聴し、研鑽する	

【使用教科書・教材・参考書】

授業で配ったプリント類、筆記用具、録音機器

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	殺陣2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	2000年より役者として活動。株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「テニスの王子様」「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	日本の芸能界において「アクション」とは殴る、蹴る、極める、投げる、切る、撃つ等の暴力の表現を差します。前期を更に前半、後半に分けて前半は素手による殴り方、殴られ方、後半は時代劇で使う大刀の扱い方を木刀や竹光を使って学びます。						
到達目標	殴る、殴られるを痛みの表現として、剣は刃物として安全かつ臨場感を失うことなく演じる事が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	拳の作り方、構え、空手の正拳突き	イメージトレーニング、筋トレ
2		講義・演習	アクション式殴り(顔、腹)、フック(顔、腹)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
3		講義・演習	リアクション(顔)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
4		講義・演習	リアクション(腹)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
5		講義・演習	空手の防御(上段受け、外受け、内受け)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
6		講義・演習	攻撃のかわし方(さばき、ダッキング)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
7		講義・演習	帯の結び方、刀の仕組み、抜刀、血振り、納刀	イメージトレーニング、筋トレ
8		講義・演習	素振り1(面、左右面、袈裟斬り)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
9		講義・演習	素振り2(抜き胴、突き、真つ向)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
10		講義・演習	打ち込み(空打ち～振り返りまで)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
11		講義・演習	打ち込み～剣を払われる	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
12		講義・演習	剣を捌く、払う	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
13		講義・演習	斬られたリアクションと戦ってみよう	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			興味のある声優のボイスサンプルを各事務所ホームページから試聴し、研鑽する	

【使用教科書・教材・参考書】

授業で配ったプリント類、筆記用具、録音機器

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校



科目名	ボイスサンプル制作1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	井上悟
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	声優、俳優、ナレーター。株式会社アーツビジョン所属。						
授業の学習 内容	声優のオーディションで不可欠なボイスサンプルの製作を基礎から学習し習得する。						
到達目標	「声優」という職業に必要な考え方、スキル、表現力を身に付ける。自分の声を知り、適切な役が演じられるようになる。ボイスサンプルの原稿を自分でつくれるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ボイスサンプルとは?①	尊敬する声優のボイスサンプルを調べる
2		講義・演習	ボイスサンプルとは?②	用意された原稿の演じ分けパターンをつくってくる
3		講義・演習	キャラクター考察①	自身の声質に合わせたボイスサンプルの作成
4		講義・演習	キャラクター考察②	自身の声質に合わせたボイスサンプルの作成
5		講義・演習	キャラクター考察③	自身の声質に合わせたボイスサンプルの作成
6		講義・演習	キャラクター考察④	自身の声質に合わせたボイスサンプルの作成
7		講義・演習	ナレーションの制作①	ナチュラルなナレーション原稿の準備
8		講義・演習	ナレーションの制作①	子ども向け商品のナレーション原稿の準備
9		講義・演習	ナレーションの制作①	高級品のナレーション原稿の準備
10		講義・演習	ナレーションの制作①	旅番組のナレーション原稿の準備
11		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
12		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
13		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			母音法の練習を実施する	
【使用教科書・教材・参考書】				
ノート、筆記用具				

科目名	ボイスサンプル制作2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	井上悟
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	声優、俳優、ナレーター。株式会社アーツビジョン所属。						
授業の学習 内容	声優のオーディションで不可欠なボイスサンプルの製作を基礎から学習し習得する。						
到達目標	「声優」という職業に必要な考え方、スキル、表現力を身に付ける。自分の声を知り、適切な役が演じられるようになる。ボイスサンプルの原稿を自分でつくれるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
2		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
3		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
4		講義・演習	オーディション対策①	課題がある場合のボイスサンプル対策について準備する
5		講義・演習	オーディション対策②	課題がある場合のボイスサンプル対策について準備する
6		講義・演習	オーディション対策③	課題がある場合のボイスサンプル対策について準備する
7		講義・演習	オーディション対策④	課題がある場合のボイスサンプル対策について準備する
8		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
9		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
10		講義・演習	ボイスサンプル収録	実際の収録に向けた準備
11		講義・演習	ブラッシュアップ①	オーディションに向けて、ブラッシュアップする
12		講義・演習	ブラッシュアップ①	オーディションに向けて、ブラッシュアップする
13		講義・演習	ブラッシュアップ③	オーディションに向けて、ブラッシュアップする
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			母音法の練習を実施する	
【使用教科書・教材・参考書】				
ノート、筆記用具				

科目名	JAZZ A-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	久次
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2018年より東京DAで講師を務める。						
授業の学習 内容	①振付師のどのような要望にも応えるため、まずはジャズの基礎を徹底的に身につけ、振りを踊るときにその大切さを感じられるところまで持っていく。②バレエを基礎にしていることに基づいてほしい。③ただ振りを覚えて楽しく踊るのではなく、基礎を踏まえて誰が見ても安心して見ていられるダンサーになってもらいたい。④ウォーミングアップ、パーレッスン、クロスフロアを行った後に振りを覚えて踊ってみる。						
到達目標	前期では基礎的なクロスフロアを問題なくこなせることと、それらを振りのなかでも問題なくこなせること。						
評価方法と基準	出席日数60%、実技テスト40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	立ち方から説明。ウォームアップで大切なことも一通り説明する。	次週に向けての自主練習。
2		演習	筋トレを開始	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		演習	プリエを正しく理解する。	次週に向けての自主練習。
4		演習	パドブレを正しく行うことができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		演習	インパッセでのバランスを安定して行うことができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		演習	回転の首をキレイに切ることができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		演習	パドブレターンができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		演習	体重移動を正しく行うことができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		演習	ピケ、シェネ曲がらずに進める。早いシェネもできるようになる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		演習	片足のプリエが安定してくる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		演習	鏡がなくても踊ることができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		演習	ピレットダブルができるようになる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		演習	テスト	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			その日にできたこと、できなかったこと、わからなかったことを思い出すだけで次の授業が違います。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	久次
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2018年より東京DAで講師を務める。						
授業の学習 内容	①卒業後の現場で振付師やスタッフに信頼されるよう、振りをしっかり覚えるだけでなく魅力的に踊れ、他のダンサーからも信頼されるダンサーを目指していく。②ミュージカルだけでなく様々な現場で役に立つジャンルである。③それぞれの現場でダンスキャプテンなどを勤められるようになってもらいたい。④ウォーミングアップ、バーレッスン、クロスフロアを行った後に毎回の振りを自分のものとして踊ることができる。						
到達目標	シエネジュッテなど舞台上でも見栄えのする技術の取得。						
評価方法と基準	出席日数60%、実技テスト40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ピルエットダブルを美しく回れる。	次週に向けての自主練習。
2		演習	グランバットマンが上がりやすくなっている。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		演習	自分なりのウォーキングができる。	次週に向けての自主練習。
4		演習	体重移動が足音をさせないなどスムーズに行うことができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		演習	速いシエネ、ピケダブルを難なくこなすことができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		演習	ロンデジャンプができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		演習	ランベルセができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		演習	振りを1日目で自分のものに行うことができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		演習	ソデバスクができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		演習	シャットセウールができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		演習	鏡がなくても踊ることができる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		演習	ピルエットダブルができるようになる。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		演習	テスト	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		振りをもらって一回目と二回目でどう変化させようか、どう長くしようか考えてから授業に臨んでほしいです。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ B-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	渡辺裕子 磯貝さゆり 久次亜希子 菊池朝菜 藪野資博 井上守
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二						
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の学習内容	基本の姿勢の振り返り、ダンスの基礎から応用を学んでいく 振りを覚える						
到達目標	もらった振り付けを正確に覚えて表現する。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチの強化	各自授業内容を復習
2		講義・演習	アイソレーションを中心に。	各自授業内容を復習
3		講義・演習	ブリエなどバレエの基礎	各自授業内容を復習
4		講義・演習	振り付けを覚える。	各自授業内容を復習
5		講義・演習	振り付けを正確に踊る。	各自授業内容を復習
6		講義・演習	表情もつけて踊る。	各自授業内容を復習
7		講義・演習	何回踊っても間違えない。	各自授業内容を復習
8		講義・演習	スローな動きで踊る。	各自授業内容を復習
9		講義・演習	手足がしっかり伸びるようにする。	各自授業内容を復習
10		講義・演習	感情をこめて踊る。	各自授業内容を復習
11		講義・演習	少人数に分けて大きく踊る。	各自授業内容を復習
12		講義・演習	アップテンポのダンス	各自授業内容を復習
13		講義・演習	グルーブとアイソレーションを大切に。	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ				

科目名	JAZZ B-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	渡辺裕子 磯貝さゆり 久次亜希子 菊池朝菜 藪野資博 井上守
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二						
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の学習内容	基本の姿勢の振り返り、ダンスの基礎から応用を学んでいく 振りを覚える						
到達目標	もらった振り付けを正確に覚えて表現する。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチの強化	各自授業内容を復習
2		講義・演習	アイソレーションを中心に。	各自授業内容を復習
3		講義・演習	セクシーに歩く練習	各自授業内容を復習
4		講義・演習	軽いコンビネーションのクロスフロア	各自授業内容を復習
5		講義・演習	腰をしっかり動かせるように	各自授業内容を復習
6		講義・演習	可愛い歩き方	各自授業内容を復習
7		講義・演習	笑顔で歩く	各自授業内容を復習
8		講義・演習	アイドルらしい振り付け	各自授業内容を復習
9		講義・演習	表情を大切に。	各自授業内容を復習
10		講義・演習	フリーでのダンス強化	各自授業内容を復習
11		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	各自授業内容を復習
12		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	各自授業内容を復習
13		講義・演習	フロアでセクシーに。	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】		シューズ		

科目名	JAZZ C-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	渡辺裕子 磯貝さゆり 久次亜希子 菊池朝菜 藪野資博 井上守
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二						
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の 学習内容	基本の姿勢の振り返り、ダンスの基礎から応用を学んでいく 振り返りを覚える						
到達目標	①正しい姿勢を理解し、実践できる。 ②基礎の大切さを理解している。 ③振り返りを覚え、曲の意味に沿って表現しながら踊ることが出来る。						
評価方法と 基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの説明、ピルコット・コンビネーション	各自授業内容を復習
2		講義・演習	ウォームアップの解説 ①姿勢・コンビネーション	各自授業内容を復習
3		講義・演習	ウォームアップの解説 ②パラレルの重要性・コンビネーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	ウォームアップの解説 ③ルルベ・コンビネーション	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ブリエの説明、実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	タンデュ・デガジェの説明	各自授業内容を復習
7		講義・演習	体重移動 タンデュ→タンデュ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	片足になる パッセ	各自授業内容を復習
9		講義・演習	体重移動 タンデュ→パッセ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	ロンデジャンプ	各自授業内容を復習
11		講義・演習	ロンデジャンプ→ピケ	各自授業内容を復習
12		講義・演習	ピレットダブルを安定させる	各自授業内容を復習
13		講義・演習	テスト	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ C-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	渡辺裕子 磯貝さゆり 久次亜希子 菊池朝菜 藪野資博 井上守
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二						
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の 学習内容	基本の姿勢の振り返り、ダンスの基礎から応用を学んでいく 振りを覚える						
到達目標	①テクニックの向上 ②自分で考え、人に見せることを前提としたダンスをすることが出来る。						
評価方法と 基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの確認	各自授業内容を復習
2		講義・演習	筋力アップ(筋トレのレベルアップ)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	エクササイズの難度アップ フラットバックから起きてルルベへ	各自授業内容を復習
4		講義・演習	エクササイズの難度アップ 片足ブリエの強化・フォンデュ	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ウォーキングの練習①	各自授業内容を復習
6		講義・演習	ウォーキングの練習②	各自授業内容を復習
7		講義・演習	クロスフロア ロンデジャンプ①	各自授業内容を復習
8		講義・演習	クロスフロア ランベルヤ①	各自授業内容を復習
9		講義・演習	クロスフロア ロンデジャンプ②	各自授業内容を復習
10		講義・演習	クロスフロア ランベルヤ②	各自授業内容を復習
11		講義・演習	アームスのポジションの安定	各自授業内容を復習
12		講義・演習	コンビネーションを正しく人に振りうつしが出来る	各自授業内容を復習
13		講義・演習	テスト	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】		時々ゴムやボールを使用		



科目名	JAZZ D-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	渡辺裕子 磯貝さゆり 久次亜希子 菊池朝菜 藪野資博 井上守
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二						
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の 学習内容	基本の姿勢の振り返り、ダンスの基礎から応用を学んでいく 振りを覚える						
到達目標	正しい姿勢の理解 基礎の大切さを伝える 振りを覚え、自分なりに踊ることができる						
評価方法と 基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップ1曲目→コンビネーション	各自授業内容を復習
2		講義・演習	ウォームアップ2曲目→コンビネーション	各自授業内容を復習
3		講義・演習	ロールアップ、ダウン、フラットバック	各自授業内容を復習
4		講義・演習	正しいプリエ パラレル ターンアウト	各自授業内容を復習
5		講義・演習	指先の正しい使い方 タンデュ デガシエ	各自授業内容を復習
6		講義・演習	パッセの説明→バランス	各自授業内容を復習
7		講義・演習	パッセのバランスからピルエット	各自授業内容を復習
8		講義・演習	ロンデジャンプの説明	各自授業内容を復習
9		講義・演習	パッセとロンデジャンプからのピケターン	各自授業内容を復習
10		講義・演習	片足プリエ→体重移動	各自授業内容を復習
11		講義・演習	体重移動に気を付けながらクロスフロア	各自授業内容を復習
12		講義・演習	ピルエット、ピケシエネが躊躇なくできる	各自授業内容を復習
13		講義・演習	テスト	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】		時々ゴムやボールを使用		

科目名	JAZZ D-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	渡辺裕子 磯貝さゆり 久次亜希子 菊池朝菜 藪野資博 井上守
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 屋間部二						
教員の略歴	JAZZダンス 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の 学習内容	基本の姿勢の振り返り、ダンスの基礎から応用を学んでいく 振りを覚える						
到達目標	正しい姿勢の理解 基礎の大切さを伝える 振りを覚え、自分なりに踊ることができる						
評価方法と 基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップ→コンビネーション	各自授業内容を復習
2		講義・演習	ウォームアップ→コンビネーション	各自授業内容を復習
3		講義・演習	ロールアップ、ダウン、フラットバック	各自授業内容を復習
4		講義・演習	プリエ パラレル ターンアウト	各自授業内容を復習
5		講義・演習	指先の正しい使い方 タンデュ デガシエ	各自授業内容を復習
6		講義・演習	パッセの→バランス	各自授業内容を復習
7		講義・演習	パッセのバランスからピルエット	各自授業内容を復習
8		講義・演習	ロンデジャンプ	各自授業内容を復習
9		講義・演習	パッセとロンデジャンプからのピケターン	各自授業内容を復習
10		講義・演習	片足プリエ→体重移動	各自授業内容を復習
11		講義・演習	体重移動に気を付けながらクロスフロア	各自授業内容を復習
12		講義・演習	ピルエット、ピケシエネ	各自授業内容を復習
13		講義・演習	テスト	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】		時々ゴムやボールを使用		

科目名	バレエA-3	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	白石健二
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季、オリエンタルランド、東京バレエ団、ダンス講師、振付家						
授業の学習 内容	基礎トレーニングの中で身体の隅々までコントロールできる身体作り、身体の仕組みを理解し、そのための解剖学、分解学を学ぶ。身体の癖や思い込みをなくし、全てのジャンルのダンスに繋がるバレエを学ぶ。						
到達目標	身体のコアの未開拓の部分を整備して、中心から末端まで意識を届け、コントロールできる身体を目指し、技術の向上を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	床を使ったトレーニングとバー(前半)	なぜこの授業を選択したのかを意識的に確認する
2		講義・演習	床を使ったトレーニングとバー(後半)	基礎トレーニングの復習
3		講義・演習	床を使ったトレーニングとバーの復習	基礎トレーニングの復習
4		講義・演習	床を使ったトレーニングとバー、ターンの基礎	基礎トレーニングの復習
5		講義・演習	バー、センター基礎と順番	基礎トレーニングの復習
6		講義・演習	バー、センター(ターン、スモールジャンプ)	基礎トレーニングの復習
7		講義・演習	バー、センター(ターン、スモールジャンプ)応用	基礎トレーニングの復習
8		講義・演習	バー、センター、細かい繋ぎの基礎	基礎トレーニングの復習
9		講義・演習	バー、センター、大ジャンプの技の基礎	応用の予習復習
10		講義・演習	バー、センター、技の種類取得	応用の予習復習
11		講義・演習	バー、センター、グランワルツまで	応用の予習復習
12		講義・演習	バー、センター、グランワルツまで	応用の予習復習
13		講義・演習	バー、センター、グランワルツまでのテスト	まとめ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			youtubeなどの動画をみること	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA-4	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	白石健二
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季、オリエンタルランド、東京バレエ団、ダンス講師、振付家						
授業の学習 内容	基礎トレーニングの中で身体の隅々までコントロールできる身体作り、身体の仕組みを理解し、そのための解剖学、分解学を学ぶ。身体の癖や思い込みをなくし、全てのジャンルのダンスに繋がるバレエを学ぶ。						
到達目標	自分の意志で、骨のアライメントを整え、動かし、正しい場所を知ること、その違いを体感すること。それらをコントロールして踊り、表現できるとこまで繋げること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	バー、センター復習	基礎トレーニングの復習
2		講義・演習	バー、センター復習	基礎トレーニングの復習
3		講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの復習	基礎トレーニングの復習
4		講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの復習	基礎トレーニングの復習
5		講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの応用	基礎トレーニングの復習
6		講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの応用	基礎トレーニングの復習
7		講義・演習	身体づくりの基礎を振り返る	基礎トレーニングの復習
8		講義・演習	身体づくりの基礎から難しい技へ繋げる考え方	基礎トレーニングの復習
9		講義・演習	身体づくりの基礎から難しい技へ繋げる考え方	応用の予習復習
10		講義・演習	バー、センター、グランワルツまで、体の仕組み分解学 の理解	応用の予習復習
11		講義・演習	バー、センター、グランワルツまで、体の仕組み分解学 の理解	応用の予習復習
12		講義・演習	バー、センター、グランワルツまで、体の仕組み分解学 の理解	応用の予習復習
13		講義・演習	バー、センター、グランワルツまでのテスト	まとめ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			youtubeなどの動画をみること	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエ B-3	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	吉村真弓
		授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二						
教員の略歴	郡内バレエスタジオにてバレエ講師を務める傍らダンサーとしても活動						
授業の学習 内容	クラシックバレエの基礎を身につける。舞台人としての姿勢を学ぶ。						
到達目標	クラシックバレエの基礎を理解し、柔軟性・音楽性・表現力を高める。美しく踊れるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	バレエの基礎の確認	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
2		演習	軸のアンデオールの意識を高める	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
3		演習	動いている足のアンデオールを高める	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
4		演習	軸を意識し、上体や脚の付け方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
5		演習	正しいアームスの使い方の必要性を学ぶ ビルエットを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
6		演習	ビルエットの質を高める アレグロのハを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
7		演習	ビルエット、アレグロをメインにした組み合わせを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
8		演習	アダージュの動きの流れや、上半身の使い方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
9		演習	ターンの種類を知り、正しい回り方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
10		演習	グランフルツ、ターンをメインにした組み合わせを学 ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
11		演習	総括(アンデオールの意識を高めて美しく踊る)	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
12		演習	実技試験のアンシェナマンを提示し、練習する	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
13		演習	試験(2.3人ずつ踊り、身体の使い方、表現を見直す)	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
14		講義・演習	イベント・実技を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実技を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】なし				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	バレエ B-4	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 吉村真弓
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	都内バレエスタジオにてバレエ講師を務める傍らダンサーとしても活動					
授業の学習 内容	クラシックバレエの基礎を身につける。舞台人としての姿勢を学ぶ。					
到達目標	クラシックバレエの基礎を理解し、柔軟性・音楽性・表現力を高める。美しく踊れるようになる。					
評価方法と基準	実技試験100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期で習得したバレエの基礎の確認	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
2		演習	バーでのフォンジュ、フラッペ、グランバットマンの軸のアンデオールの意識を 高める	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
3		演習	アダージオの軸の意識を高め、上半身やアームス、顔の付け方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
4		演習	センターでのタンジュのアームス、上体の使い方を学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
5		演習	ビルエットの質を高める	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
6		演習	ビルエットがメインの組み合わせを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
7		演習	アレグロの種類を学び、早い動きに対応できるように学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
8		演習	アレグロがメインの組み合わせを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
9		演習	ターンの質を高める 軸の意識を高めてアンデオールで回る	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
10		演習	グランワルツ、ターンをメインにした組み合わせを学ぶ	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
11		演習	総括 (アンデオールの意識を高めて、美しく踊る)	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
12		演習	実技試験のアンシェネマンを提示し、練習する	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
13		演習	試験 (2.3人ずつ踊り、身体の使い方、表現を見直す)	柔軟性を高めるためにストレッチ (スピリッツ)を毎日する
14		講義・演習	イベント・実技を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実技を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】なし				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷ノ東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	バレエC-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	他ジャンルに繋がるバレエとは。	前期の目標設定、基礎の見直し
2		講義・演習	自分の骨格を知り、正しい立ち方、姿勢を見直す。	自分の体型、骨格を知り、長所短所を知る
3		講義・演習	バーレッスンを通して身体のラインを生む	自分に合ったストレッチ、トレーニングを知り、習慣的に実践する
4		講義・演習	床との関係、足裏、骨盤の確認	丹田、体幹トレーニング強化
5		講義・演習	上体との連動、音楽性の向上	様々なジャンルの音楽を聴く
6		講義・演習	テクニック強化(重心、体重移動)	パの確認、復習、練習
7		講義・演習	テクニック強化(ピルエット、ターン)	パの確認、復習、練習
8		講義・演習	テクニック強化(ジャンプ、ワルツ強化)	音楽の使い方の研究
9		講義・演習	音楽を身体で表現する	身体のライン、魅せ方の研究
10		講義・演習	前期まとめ(身体の変化への気付き)	客観的に自分を見つめる
11		講義・演習	前期まとめ2(身体のラインの見直し)	出来ること、出来ないことを明確にする
12		講義・演習	前期まとめ3(音楽性の向上、テクニック強化)口	自分に合ったストレッチ、トレーニングの見直し
13		講義・演習	後期に向けての課題(テクニック応用)	前期の復習、後期への目標設定
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残す事。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レオタード、バレエシューズ				

科目名	バレエC-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習、姿勢立ち方の見直し	各自後期の目標設定
2		講義・演習	基礎の見直し、反復練習	自分に合ったストレッチ、トレーニングを習慣的に実践する
3		講義・演習	基礎の見直し、反復練習2	背骨、体幹を感じるトレーニング
4		講義・演習	テクニック強化(ターン、ジャンプ)	足裏、床を感じるトレーニング
5		講義・演習	身体のライン作り(上体、アームス)	上体の可動域の拡大、ストレッチの強化
6		講義・演習	身体のライン作り(足さばき、上体との連動)	強くしなやかな身体作り
7		講義・演習	音楽を表現する身体作り	様々なジャンルの音楽を聴く
8		講義・演習	音楽を表現する身体作り2	身体表現とは何か、自分なりに考える
9		講義・演習	センターレッスン応用(テクニック強化)	出来ること出来ないことを明確にする
10		講義・演習	センターレッスン応用2(テクニック強化)	長所短所を客観的に捉える
11		講義・演習	後期まとめ 1	バレエ用語の復習、確認
12		講義・演習	後期まとめ 2	バレエ用語の復習、確認
13		講義・演習	一年間のまとめ(基礎から応用まで)	一年間の成果、反省をし、今後の目標を設定する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋カトレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残しておく。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レオタード、バレエシューズ				



科目名	バレエD-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	他ジャンルに繋がるバレエとは。	前期の目標設定、基礎の見直し
2		講義・演習	自分の骨格を知り、正しい立ち方、姿勢を見直す。	自分の体型、骨格を知り、長所短所を知る
3		講義・演習	バーレッスンを通して身体のラインを生む	自分に合ったストレッチ、トレーニングを知り、習慣的に実践する
4		講義・演習	床との関係、足裏、骨盤の確認	丹田、体幹トレーニング強化
5		講義・演習	上体との連動、音楽性の向上	様々なジャンルの音楽を聴く
6		講義・演習	テクニック強化(重心、体重移動)	パの確認、復習、練習
7		講義・演習	テクニック強化(ピルエット、ターン)	パの確認、復習、練習
8		講義・演習	テクニック強化(ジャンプ、ワルツ強化)	音楽の使い方の研究
9		講義・演習	音楽を身体で表現する	身体のライン、魅せ方の研究
10		講義・演習	前期まとめ(身体の変化への気付き)	客観的に自分を見つめる
11		講義・演習	前期まとめ2(身体のラインの見直し)	出来ること、出来ないことを明確にする
12		講義・演習	前期まとめ3(音楽性の向上、テクニック強化)口	自分に合ったストレッチ、トレーニングの見直し
13		講義・演習	後期に向けての課題(テクニック応用)	前期の復習、後期への目標設定
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残す事。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レオタード、バレエシューズ				

科目名	バレエD-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、パーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習、姿勢立ち方の見直し	各自後期の目標設定
2		講義・演習	基礎の見直し、反復練習	自分に合ったストレッチ、トレーニングを習慣的に実践する
3		講義・演習	基礎の見直し、反復練習2	背骨、体幹を感じるトレーニング
4		講義・演習	テクニック強化(ターン、ジャンプ)	足裏、床を感じるトレーニング
5		講義・演習	身体のライン作り(上体、アームス)	上体の可動域の拡大、ストレッチの強化
6		講義・演習	身体のライン作り(足さばき、上体との連動)	強くしなやかな身体作り
7		講義・演習	音楽を表現する身体作り	様々なジャンルの音楽を聴く
8		講義・演習	音楽を表現する身体作り2	身体表現とは何か、自分なりに考える
9		講義・演習	センターレッスン応用(テクニック強化)	出来ること出来ないことを明確にする
10		講義・演習	センターレッスン応用2(テクニック強化)	長所短所を客観的に捉える
11		講義・演習	後期まとめ 1	バレエ用語の復習、確認
12		講義・演習	後期まとめ 2	バレエ用語の復習、確認
13		講義・演習	一年間のまとめ(基礎から応用まで)	一年間の成果、反省をし、今後の目標を設定する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残しておく。	
【使用教科書・教材・参考書】 レオタード、バレエシューズ				

科目名	HIPHOP A-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年					
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング					
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP A-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年					
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング					
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP B-3		必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年						
授業の学習内容	①Hip Hopのカルチャーの基本がオールドスクールにあるので、まずそのリズムの動きを知ることが大切。 ②全てのストリートダンスに繋がる原点。 ③社会人として常識のある人になって欲しい。そこからダンス界に羽ばたいて欲しい。						
到達目標	①1年生の間に基本的な身体作り、リズムコントロールが出来るようになる ②基礎トレーニングの実施。自宅でも出来るトレーニングのレクチャー ③聞く曲が偏らないよう色々なジャンルを聞けるようになる。またレッスンでも使用する。 ④言葉使いの徹底、挨拶						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						
授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	今後のレッスンの説明、基本リズム①、軽い振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
2		講義・演習	レッスン説明、基本リズム①、軽い振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
3		講義・演習	基本リズム②、ステップ、軽い振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
4		講義・演習	基本リズム②、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
5		講義・演習	基本リズム③、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
6		講義・演習	基本リズム③、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
7		講義・演習	基本リズム④、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
8		講義・演習	基本リズム④、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
9		講義・演習	基本リズム④、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
10		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
11		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
12		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
13		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
14		講義・演習	基本リズムのテスト、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
15		講義・演習	基本リズムのテスト、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	HIPHOP B-4		必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年						
授業の学習内容	①Hip Hopのカルチャーの基本がオールドスクールにあるので、まずそのリズムの動きを知ることが大切。 ②全てのストリートダンスに繋がる原点。 ③社会人として常識のある人になって欲しい。そこからダンス界に羽ばたいて欲しい。						
到達目標	①1年生の間に基本的な身体作り、リズムコントロールが出来るようになる ②基礎トレーニングの実施。自宅でも出来るトレーニングのレクチャー ③聞く曲が偏らないよう色々なジャンルを聞けるようになる。またレッスンでも使用する。 ④言葉使いの徹底、挨拶						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						
授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容		準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	今後のレッスンの説明、基本リズム①、軽い振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
2		講義・演習	レッスン説明、基本リズム①、軽い振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
3		講義・演習	基本リズム②、ステップ、軽い振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
4		講義・演習	基本リズム②、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
5		講義・演習	基本リズム③、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
6		講義・演習	基本リズム③、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
7		講義・演習	基本リズム④、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
8		講義・演習	基本リズム④、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
9		講義・演習	基本リズム④、ステップ、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
10		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
11		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
12		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
13		講義・演習	基本リズム①～④、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
14		講義・演習	基本リズムのテスト、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
15		講義・演習	基本リズムのテスト、テクニック、振り		ストレッチ、ダンサー基礎トレーニング方法		
準備学習 時間外学習							
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	HIPHOP C-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年					
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力の向上。</li> <li>・「音を聞くこと。表現力。覚える力。」を振付の中で養う。</li> <li>・ストレッチ→基礎→振付(基本的な授業の流れ。)</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントを音楽に変換し、踊れるようになる。</li> <li>・振付を自分の踊りに変換して、踊ることができる。</li> <li>・素早く振付を覚える。</li> </ul>					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	基礎 / 振付①	基礎トレーニング&振付の練習	
2		講義・演習	基礎 / 振付①	基礎トレーニング&振付の練習	
3		講義・演習	基礎 / 振付②	基礎トレーニング&振付の練習	
4		講義・演習	基礎 / 振付②	基礎トレーニング&振付の練習	
5		講義・演習	基礎 / 振付②	基礎トレーニング&振付の練習	
6		講義・演習	基礎 / 振付③	基礎トレーニング&振付の練習	
7		講義・演習	基礎 / 振付③	基礎トレーニング&振付の練習	
8		講義・演習	基礎 / 振付③	基礎トレーニング&振付の練習	
9		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習	
10		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習	
11		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習	
12		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習	
13		講義・演習	基礎 / 振付⑤	基礎トレーニング&振付の練習	
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出	
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出	
準備学習 時間外学習					

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	HIPHOP C-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年					
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力の向上。</li> <li>・「音を聞くこと。表現力。覚える力。」を振付の中で養う。</li> <li>・ストレッチ→基礎→振付(基本的な授業の流れ。)</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウントを音楽に変換し、踊れるようになる。</li> <li>・振付を自分の踊りに変換して、踊ることができる。</li> <li>・素早く振付を覚える。</li> </ul>					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎 / 振付①	基礎トレーニング&振付の練習
2		講義・演習	基礎 / 振付①	基礎トレーニング&振付の練習
3		講義・演習	基礎 / 振付②	基礎トレーニング&振付の練習
4		講義・演習	基礎 / 振付②	基礎トレーニング&振付の練習
5		講義・演習	基礎 / 振付②	基礎トレーニング&振付の練習
6		講義・演習	基礎 / 振付③	基礎トレーニング&振付の練習
7		講義・演習	基礎 / 振付③	基礎トレーニング&振付の練習
8		講義・演習	基礎 / 振付③	基礎トレーニング&振付の練習
9		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習
10		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習
11		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習
12		講義・演習	基礎 / 振付④	基礎トレーニング&振付の練習
13		講義・演習	基礎 / 振付⑤	基礎トレーニング&振付の練習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出

準備学習 時間外学習

【使用教科書・教材・参考書】



科目名	HIPHOP D-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年					
授業の学習 内容	ダンス業界又はエンターテインメント業界で卒業後稼いで行くために必要なスキル、基礎知識だったバックダンサーはもちろん自分という存在が主体となり求められるダンサー、振付師になれる授業をする。					
到達目標	日本国内は勿論世界でも通用するような技術やパフォーマンス力を習得する。					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	アイソレーション、基礎体力を身に付ける	筋トレ、体幹、アイソレーション	
2		講義・演習	音を正確に捉えて身体を使えるようになる	筋トレ、体幹、アイソレーション	
3		講義・演習	音を正確に捉えて身体を使えるようになる	筋トレ、体幹、アイソレーション	
4		講義・演習	振りを覚えるスピードを上げる	筋トレ、体幹、アイソレーション	
5		講義・演習	振りを覚えそれをパフォーマンスする力をつける	筋トレ、体幹、アイソレーション	
6		講義・演習	緩急などをつけそれをパフォーマンスできるようにする	筋トレ、体幹、アイソレーション	
7		講義・演習	スキルチェック	筋トレ、体幹、アイソレーション	
8		講義・演習	ソロでも萎縮しないパフォーマンス力の習得する	筋トレ、体幹、アイソレーション	
9		講義・演習	ステージでのパフォーマンスの仕方の習得	筋トレ、体幹、アイソレーション	
10		講義・演習	振り付けの中での魅せ方の習得	筋トレ、体幹、アイソレーション	
11		講義・演習	振り付けの中での魅せ方の向上	筋トレ、体幹、アイソレーション	
12		講義・演習	自分らしさの表現の追求	筋トレ、体幹、アイソレーション	
13		講義・演習	テスト	復習	
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出	
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出	
準備学習 時間外学習					

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	HIPHOP D-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 関根彩乃 田中英輔 相沢圭祐
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年/6年					
授業の学習 内容	ダンス業界又はエンターテインメント業界で卒業後稼いでいくために必要なスキル、基礎知識だったバックダンサーはもちろん自分という存在が主体となり求められるダンサー、振付師になれる授業をする。					
到達目標	日本国内は勿論世界でも通用するような技術やパフォーマンス力を習得する。					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	アイソレーション、基礎体力を身に付ける	筋トレ、体幹、アイソレーション	
2		講義・演習	音を正確に捉えて身体を使えるようになる	筋トレ、体幹、アイソレーション	
3		講義・演習	音を正確に捉えて身体を使えるようになる	筋トレ、体幹、アイソレーション	
4		講義・演習	振りを覚えるスピードを上げる	筋トレ、体幹、アイソレーション	
5		講義・演習	振りを覚えそれをパフォーマンスする力をつける	筋トレ、体幹、アイソレーション	
6		講義・演習	緩急などをつけそれをパフォーマンスできるようにする	筋トレ、体幹、アイソレーション	
7		講義・演習	スキルチェック	筋トレ、体幹、アイソレーション	
8		講義・演習	ソロでも萎縮しないパフォーマンス力の習得する	筋トレ、体幹、アイソレーション	
9		講義・演習	ステージでのパフォーマンスの仕方の習得	筋トレ、体幹、アイソレーション	
10		講義・演習	振り付けの中での魅せ方の習得	筋トレ、体幹、アイソレーション	
11		講義・演習	振り付けの中での魅せ方の向上	筋トレ、体幹、アイソレーション	
12		講義・演習	自分らしさの表現の追求	筋トレ、体幹、アイソレーション	
13		講義・演習	テスト	復習	
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出	
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出	
準備学習 時間外学習					

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	FREE STYLE A-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	基本のリズム取りを45分間行い、その日のメインのステップを1～3つ程レクチャー。						
到達目標	音楽に乗れる身体、緩急やシルエットまで意識できるダンサーになる。						
評価方法と基準	授業態度、出席率、を元を実施試験でのダンス						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
2		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
3		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
4		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
5		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
6		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
7		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
8		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
9		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け+@	各自授業内容を復習
10		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け+@	各自授業内容を復習
11		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け+@	各自授業内容を復習
12		講義・発表	8×2FREE DANCE 振り+フォーメーション	各自授業内容を復習
13		講義・発表	総まとめ	各自授業内容を復習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			習ったSTEPを反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREE STYLE A-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	基本のリズム取りを45分間行い、その日のメインのステップを1～3つ程レクチャー。						
到達目標	音楽に乗れる身体、緩急やシルエットまで意識できるダンサーになる。						
評価方法と基準	授業態度、出席率、を元を実施試験でのダンス						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
2		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
3		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
4		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
5		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
6		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
7		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
8		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
9		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け+@	各自授業内容を復習
10		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け+@	各自授業内容を復習
11		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け+@	各自授業内容を復習
12		講義・発表	8×2FREE DANCE 振り+フォーメーション	各自授業内容を復習
13		講義・発表	総まとめ	各自授業内容を復習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			習ったSTEPを反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋カトレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			筋肉トレーニングを基盤とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋カトレニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			筋肉トレーニングを基礎とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンテンポラリー3	必修 選択	選択	年次	2年	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理にかなっている動き(骨と筋肉の正しい連動)の習得。③論理的な考え方のもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。更にコンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動き学ぶ。④振付構成法の講義を行う。						
到達目標	踊りがスムーズに動ける様になり、尚且つダイナミックなダンスを目指し、論理的な思考を身につける事で動きの応用ができる事を習得する。振付構成法の講義を受講する事で論理的に振付を考え、他のダンスの振付にも対応できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。または、平常点にて採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	①成長する為の心構え、身体の骨とインナーマッスルの確認と応用。	1年次のレッスン内容の確認。
2		講義・演習	②腹筋群、内転筋群、つま先、MP関節等の理解。コンビネーションの理解。	①の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
3		講義・演習	③フロアー・センターエクササイズのリベルアップと新ステップの理解。	②の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
4		講義・演習	④新ステップとコンビネーションの反復。 ②～③の反復。	③の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
5		講義・演習	⑤新ステップとコンビネーションの反復。 ②～④の反復。	④の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
6		講義・演習	⑥新ステップとコンビネーションの反復。 ②～⑤の反復。	⑤の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
7		講義・演習	⑦新ステップの反復。新コンビネーションの応用。②～⑥の反復。	⑥の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
8		講義・演習	⑧新ステップの反復。新コンビネーションの応用①。 ②～⑦の反復。	⑦の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
9		講義・演習	⑨新ステップの反復。新コンビネーションの応用②。 ②～⑧の反復。	⑧の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
10		講義・演習	⑩新ステップの反復。新コンビネーションの応用③。 ②～⑨の反復。	⑨の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
11		講義・演習	振付構成法の講義(構成法の基本①時間軸変化とスペースの意味)	筆記用具持参。復習、理解。
12		講義・演習	振付構成法の講義(構成法の基本②動画から構成を読み取り)	筆記用具持参。復習、理解。
13		講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を理解力、確認して自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。				

科目名	コンテンポラリー4	必修 選択	選択	年次	2年	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理にかなっている動き(骨と筋肉の正しい連動)の習得。③論理的な考えのもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。更にコンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動き学ぶ。④メンタル講義を行う。						
到達目標	踊りがスムーズに動ける様になり、尚且つダイナミックなダンスを目指し、論理的な思考を身につける事で動きの応用ができる事を習得する。メンタル講義を行う事でモチベーションの向上、精神面の安定を図る。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。または、平常点にて採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期のレッスンの内容確認(各骨と筋肉部位、エクササイズ等)	前期レッスン内容の確認と反省。
2		講義・演習	①エクササイズのレベルアップの習得。新々ステップ・コンビネーションの理解。	エクササイズ等の理解。ストレッチする。
3		講義・演習	②新々ステップ・コンビネーションの理解。 ①の反復。	①の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
4		講義・演習	③新々ステップ・コンビネーションの反復。 ①～②の反復。	②の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
5		講義・演習	④新々ステップ・コンビネーションの反復。 ①～③の反復。	③の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
6		講義・演習	⑤新々ステップ・コンビネーションの反復。 ①～④の反復。	④の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
7		講義・演習	⑥新々ステップ・コンビネーションの応用。 ①～⑤の反復。	⑤の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
8		講義・演習	⑦新々ステップ・コンビネーションの応用。 ジャンプコンビ①～⑥の反復。	⑥の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
9		講義・演習	⑧新々ステップ・コンビネーションの応用。 ジャンプコンビ①～⑦の反復。	⑦の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
10		講義・演習	⑨新々ステップ・コンビネーションの応用。 ジャンプコンビ①～⑧の反復。	⑧の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
11		講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
12		講義・演習	メンタル講義(過去、現在、未来の考え方。今に生きる本当の意味)	筆記用具持参。復習、理解。
13		講義・演習	メンタル講義(人間関係の考え方。成長の本当の意味)	筆記用具持参。復習、理解。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を理解力、確認して自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインが見える物。裸足or靴下。				



科目名	テーマパークA-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	南山光徳 竹内ゆかり
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師歴15年						
授業の学習内容	テーマパークのパフォーマーに必要な基礎力、テクニックを身につけ、オーディション合格を目指す						
到達目標	(1)オーディション合格のために必要不可欠なテクニックを習得する。 (2)表情、見せ方など自らの表現が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介でのアピール方法	自分の目標を確認する
2		講義・演習	ストレッチの仕方、筋肉のトレーニング方法	ストレッチ・筋トレ
3		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
4		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
5		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
6		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
7		講義・演習	基本のテクニック(ロンデジャンプ)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
8		講義・演習	基本のテクニック(アチチュードターン)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
9		講義・演習	基本のテクニック(バットマン)	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	習得したテクニックをクロスフロアで行う	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	8×4程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークA-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	南山光徳 竹内ゆかり
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師歴15年						
授業の学習内容	テーマパークのパフォーマーに必要な基礎力、テクニックを身につけ、オーディション合格を目指す						
到達目標	(1)オーディション合格のために必要不可欠なテクニックを習得する。 (2)表情、見せ方など自らの表現が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ターン3(ペアテ)の方法	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
2		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
3		講義・演習	前週のコンビネーションを踊る。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
4		講義・演習	表情など自己表現しながら踊る。③	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
5		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
6		講義・演習	表情など自己表現しながら踊る。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
7		講義・演習	3人ほどの小グループに分けて踊る。③	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
8		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
9		講義・演習	間違えずに自分の踊りにして踊る。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	3人ほどの小グループで自己アピールしながら踊る。③	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
13		講義・演習	試験(ピルエット・バットマン・コンビネーション)	試験での反省を踏まえて目標を確認する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパーク B-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤田沙知
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	小学2年生からクラシックバレエを始め、尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科にてジャズダンス、モダン、シアターダンス						
授業の学習 内容	基礎力をあげて自分の個性を生かした魅せ方で表現できるようになることを目指します。テーマパークのオーディションを受けるに当たって、第一印象で基礎が出来ていること、対応力が有るかどうかが重要となってきます。ダンスの基礎固め・身体作り、MC力を付けるための発声・実践、そして自己アピール力を強化するレッスンを行っていきます。						
到達目標	①安定感のあるダンスを目指し、必要な筋力をつける ②観客へ届く発声を身につける ③自分の個性を見つける ④個性をアピール出来る魅せ方を見つける ⑤様々な場面に対応出来る力を身につける						
評価方法と基準	1)学習意欲50% 2)定期テストによる上達度50% [達成の目安] レッスンに意志を持って参加すること。貪欲に技術力・表現力の向上を目指し、確実な基礎力を持った上で大勢の人がいる中でも自分の個性をアピール出来るようになること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	大きな動きに負けない体幹作り	基礎トレーニング法を学び反復練習
2		講義・演習	自分に合った発声を見つける	発声練習、ペア学習
3		講義・演習	MC台詞をよむ	台本を実際に読み込む
4		講義・演習	アームスの強化	基礎トレーニング
5		講義・演習	手先・足先・膝の強化	基礎トレーニング
6		講義・演習	新しい振付を覚える	ポイントを抑えて振付をすばやく覚える
7		講義・演習	曲中でのMC台詞の練習	決められた尺でセリフを話す練習
8		講義・演習	MCからダンスへつなげる	ダンスへ繋がるMC表現を学ぶ
9		講義・演習	ステップの流れを大切に踊る	スムーズな体重移動、プリエを意識する
10		講義・演習	回転の強化①	ピルエットの練習
11		講義・演習	回転の強化②	ピケターン、シェネの練習
12		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンスを作る	振付、MCセリフを覚える
13		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンス発表	パフォーマンスとして完成させる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパーク B-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤田沙知
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	小学2年生からクラシックバレエを始め、尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科にてジャズダンス、モダン、シアターダンス						
授業の学習 内容	基礎力をあげて自分の個性を生かした魅せ方で表現できるようになることを目指します。テーマパークのオーディションを受けるに当たって、第一印象で基礎が出来ていること、対応力が有るかどうかが重要となってきます。ダンスの基礎固め・身体作り、MC力を付けるための発声・実践、そして自己アピール力を強化するレッスンを行っていきます。						
到達目標	①安定感のあるダンスを目指し、必要な筋力をつける ②観客へ届く発声を身につける ③自分の個性を見つける ④個性をアピール出来る魅せ方を見つける ⑤様々な場面に対応出来る力を身につける						
評価方法と基準	1)学習意欲50% 2)定期テストによる上達度50% [達成の目安] レッスンに意志を持って参加すること。貪欲に技術力・表現力の向上を目指し、確実な基礎力を持った上で大勢の人がいる中でも自分の個性をアピール出来るようになること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ジャンプの技の練習①	反復練習
2		講義・演習	ジャンプの技の練習②	反復練習
3		講義・演習	MC台詞をよむ	台本を実際に読み込む
4		講義・演習	MC台詞を自分なりに作る	アレンジをする
5		講義・演習	新しい振付を覚える	ポイントを抑えて振りを覚える
6		講義・演習	個々の苦手な部分を見つける	自分の苦手な部分と向き合う
7		講義・演習	ブラッシュアップし整える	改善のための方法を見つけ実践する
8		講義・演習	振り説の練習	伝わりやすい振り説を学ぶ
9		講義・演習	ダンスから台詞へつなげる①	呼吸が上がった状態で喋るための練習
10		講義・演習	ダンスから台詞へつなげる②	反復練習
11		講義・演習	キャラクターを演じて踊る	表現を学ぶ
12		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンスを作る	声色の研究をする
13		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンスを作る①	パフォーマンス作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニング A-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務18年 ヴォイストレーナー歴30年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オー디션やステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスペックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びiPad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びiPad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備		
【使用教科書・教材・参考書】				
Visible body/ オリジナルトライ体幹理論/人体模型				

科目名	ヴォイストレーニング A-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務18年 ヴォイストレーナー歴30年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オー디션やステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスペックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びiPad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びiPad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備		
【使用教科書・教材・参考書】				
Visible body/ オリジナルトライ体幹理論/人体模型				

科目名	ヴォイストレーニングB-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚脇千賀子 鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	シンガー14年/30年						
授業の学習 内容	1.歌うために必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスとうたは身体の使い方が密接に関係しているので双方にメリットがある 3.この授業を通して歌って踊ってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と発声を細かく一人一人のコンディションに合わせて展開していく						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、発声を矯正しより良いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&Singに必要な呼吸法を学ぶ事によりクオリティの高い歌唱ができるようになる 3.最終的にDance&Singでブレない声と疲れにくい身体とキレのあるダンスができるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	姿勢と発声	発声・音感トレーニング
2		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	発声・音感トレーニング
3		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	発声・音感トレーニング
4		講義・演習	音域チェックと発声	発声・音感トレーニング
5		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
6		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
9		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
10		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
12		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
13		講義・演習	Dance&Singテスト	発声・音感トレーニング
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
オリジナルのトライ体幹理論プリント				

科目名	ヴォイストレーニングB-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚脇千賀子 鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	シンガー14年/30年						
授業の学習 内容	1.歌うために必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスとうたは身体の使い方が密接に関係しているので双方にメリットがある 3.この授業を通して歌って踊ってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と発声を細かく一人一人のコンディションに合わせて展開していく						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、発声を矯正しより良いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&Singに必要な呼吸法を学ぶ事によりクオリティの高い歌唱ができるようになる 3.最終的にDance&Singでブレない声と疲れにくい身体とキレのあるダンスができるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	姿勢と発声	発声・音感トレーニング
2		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	発声・音感トレーニング
3		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	発声・音感トレーニング
4		講義・演習	音域チェックと発声	発声・音感トレーニング
5		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
6		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
9		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
10		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
12		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
13		講義・演習	Dance&Singテスト	発声・音感トレーニング
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
オリジナルのトライ体幹理論プリント				



科目名	ヴォイストレーニングC-3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚脇千賀子 鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	シンガー14年/30年						
授業の学習 内容	1.歌うために必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスとうたは身体の使い方が密接に関係しているので双方にメリットがある 3.この授業を通して歌って踊ってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と発声を細かく一人一人のコンディションに合わせて展開していく						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、発声を矯正しより良いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&Singに必要な呼吸法を学ぶ事によりクオリティの高い歌唱ができるようになる 3.最終的にDance&Singでブレない声と疲れにくい身体とキレのあるダンスができるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	姿勢と発声	発声・音感トレーニング
2		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	発声・音感トレーニング
3		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	発声・音感トレーニング
4		講義・演習	音域チェックと発声	発声・音感トレーニング
5		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
6		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
9		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
10		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
12		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
13		講義・演習	Dance&Singテスト	発声・音感トレーニング
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
オリジナルのトライ体幹理論プリント				

科目名	ヴォイストレーニングC-4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚脇千賀子 鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	シンガー14年/30年						
授業の学習 内容	1.歌うために必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスとうたは身体の使い方が密接に関係しているので双方にメリットがある 3.この授業を通して歌って踊ってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と発声を細かく一人一人のコンディションに合わせて展開していく						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、発声を矯正しより良いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&Singに必要な呼吸法を学ぶ事によりクオリティの高い歌唱ができるようになる 3.最終的にDance&Singでブレない声と疲れにくい身体とキレのあるダンスができるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	姿勢と発声	発声・音感トレーニング
2		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	発声・音感トレーニング
3		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	発声・音感トレーニング
4		講義・演習	音域チェックと発声	発声・音感トレーニング
5		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
6		講義・演習	マイキング	発声・音感トレーニング
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	発声・音感トレーニング
9		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
10		講義・演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	発声・音感トレーニング
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
12		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	発声・音感トレーニング
13		講義・演習	Dance&Singテスト	発声・音感トレーニング
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
オリジナルのトライ体幹理論プリント				

科目名	Heels 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	関根アヤノ
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	振付師/演出家 LiSA 専属振付師2014~ プレイヤー/ 安室奈美恵、木村拓哉、SMAP、ケツメイシ、JUJUなどその他etc...						
授業の学習 内容	■ 三大ダンス教育目標 (1) 基礎ダンス力の向上 (2) 自分の魅せ方&表現方法についての自身研究 (3) 現場対応能力&コミュニケーション能力の向上						
到達目標	・去年との自分と比較してどのくらい変化があったのか実感できたか ・普段の授業でもしっかりと受け答え、コミュニケーションを取れるようになる。(現場に生かす) ・現場では女子振りやJAZZはマストになるので唯一無二の存在感やオーラ、魅せ方を取得						
評価方法と基準	定期テスト60%・出席数20%・授業に向き合う姿勢 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	基礎トレーニング / 振付指導	まずは各々身体能力チェック
2		講義、演習	体幹トレーニング / 振付指導	自身の体の弱い部分を体幹で補う
3		講義、演習	自身の可動範囲チェック / 振付指導	現時点で自分に何が足りないのか? 自分自身のキャパシティを認識する
4		講義、演習	振付けメイン	振付反復練習(最近観ている多いのが、1人で練習&確認する事が苦手な子をも見かけるので、練習の仕方&集中力の維持な仕方を学ぶ)
5		講義、演習	少人数に分けて踊る	・ (1) 1人でも負けないメンタルを鍛える
6		講義、演習	魅せ方研究 / 振付指導	ゆっくりと時間を掛けて向き合う
7		講義、演習	細かく時間を掛けて振付指導(魅せ方メイン)	反復練習 & とにかく自分の一番良い表現方法を探す
8		講義、演習	振付の中にFreestyleも入れて課題を提示	対応能力向上の為
9		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ)	(2) 撮影も兼ね、時間を掛けた結果自分がどこまで出来たのか試す
10		講義、演習	対応能力を鍛えるため、振り渡しを長く早く入れる	脳内トレーニング
11		講義、演習	更に脳内容量を増やす為に、2週目も振付けを沢山渡す	現場対応能力を向上させる為のトレーニング
12		講義、演習	長い楽曲+構成を各自付けていくトレーニング	構成能力&コミュニケーション能力向上。 人に与えられたモノをこなすのでは無く自分たちで生み出す能力を鍛える
13		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ0)	(3) 対応能力向上の為に、長く&早く入れられた振付けをどこまでついてこれるのか試す
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Heels 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	関根アヤノ
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	振付師/演出家 LiSA 専属振付師2014～ プレイヤー/ 安室奈美恵、木村拓哉、SMAP、ケツメイシ、JUJUなどその他etc、..						
授業の学習 内容	■ 三大ダンス教育目標 (1) 基礎ダンス力の向上 (2) 自分の魅せ方&表現方法についての自身研究 (3) 現場対応能力&コミュニケーション能力の向上						
到達目標	・去年との自分と比較してどのくらい変化があったのか実感できたか ・普段の授業でもしっかりと受け答え、コミュニケーションを取れるようになる。(現場に生かす) ・現場では女子振りやJAZZはマストになるので唯一無二の存在感やオーラ、魅せ方を取得						
評価方法と基準	定期テスト60%・出席数20%・授業に向き合う姿勢 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	基礎トレーニング / 振付指導	まずは各々身体能力チェック
2		講義、演習	体幹トレーニング / 振付指導	自身の体の弱い部分を体幹で補う
3		講義、演習	自身の可動範囲チェック / 振付指導	現時点で自分に何が足りないのか?自分自身のキャパシティを認識する
4		講義、演習	振付けメイン	振付反復練習(最近観ている多いのが、1人で練習&確認する事が苦手な子をも見かけるので、練習の仕方&集中力の維持な仕方を学ぶ)
5		講義、演習	少人数に分けて踊る	・ (1) 1人でも負けないメンタルを鍛える
6		講義、演習	魅せ方研究 / 振付指導	ゆっくりと時間を掛けて向き合う
7		講義、演習	細かく時間を掛けて振付指導(魅せ方メイン)	反復練習 & とにかく自分の一番良い表現方法を探す
8		講義、演習	振付の中にFreestyleも入れて課題を提示	対応能力向上の為
9		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ)	(2) 撮影も兼ね、時間を掛けた結果自分がどこまで出来たのか試す
10		講義、演習	対応能力を鍛えるため、振り渡しを長く早く入れる	脳内トレーニング
11		講義、演習	更に脳内容量を増やす為に、2週目も振付けを沢山渡す	現場対応能力を向上させる為のトレーニング
12		講義、演習	長い楽曲+構成を各自付けていくトレーニング	構成能力&コミュニケーション能力向上。 人に与えられたモノをこなすのでは無く自分たちで生み出す能力を鍛える
13		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ0)	(3) 対応能力向上の為に、長く&早く入れられた振付けをどこまでついてこれるのか試す
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宮川 京子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	K-POPインストラクター歴 15年						
授業の学習 内容	K-POPに関する幅広い知識とスキルを習得する。						
到達目標	K-POPに関する幅広い知識とスキルを習得し、将来のK-POP業界での活躍に向けた基盤を築くことを目指す						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	K-POPの概要と歴史の紹介	事前に配布した資料を予習
2		講義、演習	K-POPの主要なアーティストの紹介	自身の気になっているアーティストを事前に調べ発表できるようにする
3		講義、演習	K-POPのダンススタイルと基本的なダンスムーブの学習	リズムやダンスムーブを実践確認動画でチェックする。
4		講義、演習	K-POPの歌唱テクニックとパフォーマンスの練習	グループを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		講義、演習	K-POPの音楽ビデオの分析と制作の基礎	K-POPパフォーマンスを動画でチェックする。
6		講義、演習	K-POPの音楽ビデオの分析と制作の応用	K-POPパフォーマンスの緩急の表現方法を確認動画でチェックする。
7		講義、演習	K-POPの音楽ビデオの分析と制作の実践	K-POPパフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックし実践する
8		講義、演習	K-POPの音楽ビデオの分析と制作の実践	K-POPパフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックし実践する
9		講義、演習	K-POPのビジネスモデルとマネジメントの理解	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		講義、演習	K-POPの国際的な展開とグローバルマーケットの分析	K-POPの国際的な展開を事前動画でチェックする
11		講義、演習	K-POPのファッションとスタイリングの探求	実際にファッションとスタイリングについて動画でチェックする
12		講義、演習	K-POPの新たなトレンドや動向の調査とディスカッション	新たなトレンドについて事前に動画を確認しチェックする。
13		講義、演習	K-POPの未来展望と個人プロジェクトの提案	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宮川 京子
学科・コース	メディア&テクノロジー科 屋間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	K-POPインストラクター歴 15年						
授業の学習 内容	K-POPにおける最新のトレンドやアーティストに精通し、K-POPの進化について理解する。						
到達目標	K-POPの総合的な理解と実践的なスキルを発展させることを目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	K-POPのトレンドと新しいアーティスト紹介	事前に配布した資料を予習
2		講義、演習	K-POPダンスカバーレッスン	自身の選んだアーティストのフリを予習してくる
3		講義、演習	ミュージックビデオ制作プロジェクトの実践	ミュージックビデオ制作にあたり担当をそれぞれ確定させる
4		講義、演習	ミュージックビデオ制作プロジェクトの実践	事前に必要機材を申請・撮影を実践していく。その後編集までをしてくる
5		講義、演習	ミュージックビデオ制作プロジェクトの実践	他グループの動画を確認しレポートを書く
6		講義、演習	グループディスカッション - K-POPの社会的影響	自身の選んだアーティストの背景や歴史を研究してくる
7		講義、演習	ボーカルトレーニングとライブパフォーマンス	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
8		講義、演習	ボーカルトレーニングとライブパフォーマンス	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
9		講義、演習	ボーカルトレーニングとライブパフォーマンス	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
10		講義、演習	ファンマーケティング戦略とイベント企画	K-POP戦略を事前動画でチェックする。
11		講義、演習	K-POPのグローバル展開と異文化コラボレーション	K-POPのグローバルな展開を事前動画でチェックする。
12		講義、演習	ライブイベントの企画と運営	実際に企画内容を考えてくる
13		講義、演習	ライブイベントの企画とライブパフォーマンス実践	他のパフォーマンスを鑑賞して企画目線でレポート作成。
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なパフォーマンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイション3(ダンス)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	HIYO
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター・コレオグラファー・ダンサー・ダンスディレクター・ダンスコーディネーター						
授業の学習 内容	①ダンス関係の職業に着くためには、モラル、団結力、振り付け能力、先見性、習慣性、コミュニケーション能力、ディレクション受け入れ能力、危機管理能力、問題を解決する能力、DANCEのスキルアップ、ステージ経験、リーダーシップ、時間管理能力、積極性……と、多くの能力が必要となるため。 ②ダンスのオールジャンル……バレエ・JAZZ・コンテンポラリー・HIPHOP・JAZZHIPHOP・ガールズHIPHOP・KPOP・R&B・インストラクターなど…… 全てのジャンルが作品作りに役立つ為、全ての科目に関係します。 ③このCreationに参加し、ダンス関係の仕事が出来る人材になれるよう、多くの事を学んで欲しい。						
到達目標	上記の必要条件を求められる中、自由でありながらキチンと縛りのある環境の中で、自分達の求める人と求める曲で求める作品を作っていく。時には縛りのある作品を求められることも…… 自己満足で終わらない、観客の求めるニーズのある作品とは何かを、少しずつ苦しみながら楽しみながらわかっていく、とてもクリエイティブな時間である。その題材を通してディレクションを受けながら、人との関わり方や、ステージでの見せかたを学んでいく。						
評価方法と基準	イベント本番作品チェックでの採点……45% 出席率……50% その他(役割・振り付けなど積極性)……5%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Creationでのルール、業界でのモラル、決まり、心得などについての講義。リーダー決定の話し合い。	持ち物……Creationノートを作成し、持参し、メモを取る習慣を必ず身につける。
2		講義・演習	学園祭のコンセプト、求められる作品について指導。チーム・作品のテーマ・曲を決める。	前回の復習
3		講義・演習	自主練・アイデアの出し合い・選曲や編集の確認・作品確認・コンセプトの報告。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
4		講義・演習	ディレクションのやり方、注意点、学ぶべき点の指導。シミュレーションにて速やかな団体行動の指導。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
5		講義・演習	チームごとにディレクション・作品指導を行う。この作業を学園祭本番までやっていきます。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
6		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
7		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
8		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
9		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
10		講義・演習	教務の先生方による作品チェックがあります。	チームでの練習(リハーサル)
11		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出についての指導。	チームでの練習(リハーサル)
12		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出についての指導。	チームでの練習(リハーサル)
13		講義・演習	学園祭反省会。We Areのテーマ決め。	授業を通しての復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	クリエイション4(ダンス)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	HIYO
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター・コレオグラファー・ダンサー・ダンスディレクター・ダンスコーディネーター						
授業の学習 内容	<p>①ダンス関係の職業に着くためには、モラル、団結力、振り付け能力、先見性、習慣性、コミュニケーション能力、ディレクション受け入れ能力、危機管理能力、問題を解決する能力、DANCEのスキルアップ、ステージ経験、リーダーシップ、時間管理能力、積極性……と、多くの能力が必要となるため。</p> <p>②ダンスのオールジャンル……バレエ・JAZZ・コンテンポラリー・HIPHOP・JAZZHIPHOP・ガールズHIPHOP・KPOP・R&amp;B・インストラクターなど……</p> <p>全てのジャンルが作品作りに役立つ為、全ての科目に関係します。</p> <p>③このCreationに参加し、ダンス関係の仕事が出来る人材になれるよう、多くの事を学んで欲しい。</p>						
到達目標	<p>上記の必要条件を求められる中、自由でありながらキチンと縛りのある環境の中で、自分達の求める人と求める曲で求める作品を作っていく。時には縛りのある作品を求められることも……</p> <p>自己満足で終わらない、観客の求めるニーズのある作品とは何かを、少しずつ苦しみながら楽しみながらわかっていく、とてもクリエイティブな時間である。その題材を通してディレクションを受けながら、人との関わり方や、ステージでの見せかたを学んでいく。□</p>						
評価方法と基準	<p>イベント本番作品チェックでの採点……45%</p> <p>出席率……50%</p> <p>その他(役割・振り付けなど積極性)……5%</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	WE AREのチームコンセプトのプレゼン	持ち物……Creationノートを作成し、持参し、メモを取る習慣を必ず身につける。
2		講義・演習	コンセプト決定のチームから曲選考。講師から曲のOKをもらったら振り付けを開始する。	前回の復習
3		講義・演習	作品作成・アイデアの出し合い・選曲や編集の確認・作品確認をしていく。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
4		講義・演習	ディレクションのやり方、注意点、学ぶべき点の指導。シューミレーションにて速やかな団体行動の指導。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
5		講義・演習	チームごとにディレクション・作品指導を行う。この作業をWE ARE本番までやっています。	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
6		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
7		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
8		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
9		講義・演習	チームディレクション	チームでの練習(振り・衣装・構成思案)
10		講義・演習	教務の作品チェック	チームでの練習(リハーサル)
11		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出についての指導。	チームでの練習(リハーサル)
12		講義・演習	フォーメーションシートや音源提出についての指導。	チームでの練習(リハーサル)
13		講義・演習	全体通しリハーサルなど	授業を通しての復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	HOUSE 3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池田 卓
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を正しく理解し、HIP HOPなどにも共通するリズムやアームス、ボディコントロールなどを使いこなせるようにする						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HOUSEのベーシックな動き(体の止め方)を習得すること</li> <li>・HOUSE特有のスピード感、タメ、止めを体現すること</li> </ul>						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎①(ベーシックムーブ)	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE基礎②(ベーシックムーブ応用)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	リズム&アイソレーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	リズム&ベーシックムーブ	各自授業内容を復習
5		講義・演習	コンビネーション	各自授業内容を復習
6		講義・演習	”遊び”を混ぜる	各自授業内容を復習
7		講義・演習	フロアを混ぜる	各自授業内容を復習
8		講義・演習	アクロバットを混ぜる	各自授業内容を復習
9		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		YoutubeなどでHOUSEを観る。知る。触れる。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HOUSE 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池田 卓
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を使い、個性的に踊りこなせるように指導をする						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振付は勿論、フリーでもHOUSEを踊れるようにすること</li> <li>・様々な曲調に対応したHOUSEができるようになること</li> </ul>						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎の復習	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	HOUSE応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		講義・演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	HOUSE基礎～応用	各自授業内容を復習
9		講義・演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	BREAKIN3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年						
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		講義・演習	基本的なステップムーブの応用・実践	各自授業内容を復習
3		講義・演習	チェアー・スピンの応用・実践	各自授業内容を復習
4		講義・演習	トップロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		講義・演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		講義・演習	フリーズの種類を応用・実践	各自授業内容を復習
9		講義・演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		講義・演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステップイン)の実践	各自授業内容を復習
11		講義・演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		講義・演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	BREAKIN4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年						
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ実践。必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		講義・演習	基本的なステップムーブの応用・実践	各自授業内容を復習
3		講義・演習	チェアー・スピンの応用・実践	各自授業内容を復習
4		講義・演習	トップロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		講義・演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		講義・演習	フリーズの種類を応用・実践	各自授業内容を復習
9		講義・演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		講義・演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステッピン)の実践	各自授業内容を復習
11		講義・演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		講義・演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 田中 英輔
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年					
授業の学習 内容	特殊技能であるアクロバットを習得するのが目的。 マットを利用して基礎的なマット運動から始めて徐々に高難度のタンブリング系の技の練習を行う。 アクロバット習得に必要な基礎トレーニングを重ねることによって、身体能力の向上が望めるので他のダンスや実技クラスにも活かせる。 具体的に技を習得することの達成感や、難しいことにも繰り返し挑戦する意義を学ぶ。					
到達目標	技の習得やアクロバット技術への理解を深めることにより、表現力の幅を広げる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容、注意事項の説明。マット運動の基礎練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
2		講義・演習	マット運動の基礎練習、倒立、側転を習得する。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
3		講義・演習	マット運動の基礎練習、倒立、側転を習得する。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
4		講義・演習	基礎練習、ロンダートを理解、習得する。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
5		講義・演習	基礎練習、ロンダートを理解、習得する。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
6		講義・演習	側転の応用、前方転回(ハンスプリング)を習得する①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
7		講義・演習	側転の応用、前方転回(ハンスプリング)を習得する②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
8		講義・演習	前方転回のバリエーションを習得する。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
9		講義・演習	前方転回のバリエーションを習得する。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	前方転回、側宙の練習。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	前方転回、側宙の練習。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	前方転回、側宙、バク転の説明と練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
13		講義・演習	基礎練習、前方転回練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
14		講義・演習	実技試験。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
15		講義・演習	前期のまとめ、バク転の練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
準備学習 時間外学習		基礎トレーニング、体験トレーニングを随時行う。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 田中 英輔
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)	
教員の略歴	ダンサー・講師歴23年					
授業の学習 内容	特殊技能であるアクロバットを習得するのが目的。 基礎マット運動、タンブリング系に加え、カポエイラやトリッキングなどの動きを取り入れた練習を行う。 アクロバット習得に必要な基礎トレーニングを重ねることによって、身体能力の向上が望めるので他のダンスや実技クラスにも活かせる。 具体的に技を習得することの達成感や、難しいことにも繰り返し挑戦する意義を学ぶ。					
到達目標	技の習得やアクロバット技術への理解を深めることにより、表現力の幅を広げる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点100%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業内容、注意事項の説明。マット運動の基礎練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
2		講義・演習	マット運動の基礎練習、倒立、側転を習得する。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
3		講義・演習	マット運動の基礎練習、倒立、側転を習得する。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
4		講義・演習	基礎練習、ロンダートを理解、習得する。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
5		講義・演習	基礎練習、ロンダートを理解、習得する。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
6		講義・演習	側転の応用、前方転回(ハンスプリング)を習得する①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
7		講義・演習	側転の応用、前方転回(ハンスプリング)を習得する②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
8		講義・演習	前方転回、側宙、バク転の説明と練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
9		講義・演習	前方転回、側宙、バク転の練習。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	前方転回、側宙、バク転の練習。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	応用技の練習、バク転の練習。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	前方転回、側宙、バク転の説明と練習。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
13		講義・演習	実技試験。	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
14		講義・演習	応用技の練習、バク転の練習。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
15		講義・演習	応用技の練習、バク転の練習。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
準備学習 時間外学習		基礎トレーニング、体験トレーニングを随時お行う。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演劇ワークショップ 3	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	様々に変化する現在の芸能界における俳優としての立ち振る舞いと、必要とされる「演技力」を知る。 以上を踏まえ、あらゆる現場でのびのびと表現と演技ができるようになるための基礎力をつける。						
到達目標	演技の基礎である、「自分自身を知ること」「他者の気持ちを慮ること」「自らの『心、声、体』を 自在に使いこなすこと」この3つ取っ掛かりを掴めるようになる。 演技に興味を持ち、幅広いジャンルの演技や映画やアニメなどに自主的に触れられるようになる。 身の回りの心動く出来事にワクワクできる柔らかい感性を持てるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	俳優と演技について思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
2		講義・演習	実際に演技に触れてみる	授業内の発表に向けた自主稽古		
3		講義・演習	実技発表を通して、演技を思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
4		講義・演習	演技をブラッシュアップする	授業内の発表に向けた自主稽古		
5		講義・演習	台本に触れる	授業内の発表に向けた自主稽古		
6		講義・演習	発表を通して役作りと演技を思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
7		講義・演習	台本をブラッシュアップする	授業内の発表に向けた自主稽古		
8		講義・演習	役作りとは？	授業内の発表に向けた自主稽古		
9		講義・演習	心を動かす	授業内の発表に向けた自主稽古		
10		講義・演習	他者と演技するということ	授業内の発表に向けた自主稽古		
11		講義・演習	ここまででやったことを踏まえた演技発表	授業内の発表に向けた自主稽古		
12		講義・演習	演技発表してのフィードバックからの、さらなる研鑽	授業内の発表に向けた自主稽古		
13		講義・演習	発表 進級公演(後期)課題の発表と方向性について	授業内の発表に向けた自主稽古		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

配布台本・ノート・筆記用具

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	演劇ワークショップ 4	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	進級公演課題を通し、自分のキャラクターを知る。 様々に変化する現在の芸能界における俳優としての立ち振る舞いと、必要とされる「演技力」を知る。 以上を踏まえ、あらゆる現場でのびのびと表現と演技ができるようになるための基礎力をつける。						
到達目標	進級公演の課題を通し、「自分自身を知ること」「他者の気持ちを慮ること」「自らの『心、声、体』を自在に使いこなすこと」この3つの 取っ掛かりを掴めるようになる。 演技に興味を持ち、幅広いジャンルの演技や映画やアニメなどに自主的に触れられるようになる。 身の回りの心動く出来事にワクワクできる柔らかい感性を持てるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	台本をもらったら	授業内の発表に向けた自主稽古		
2		講義・演習	役作りとは？	授業内の発表に向けた自主稽古		
3		講義・演習	相手役との芝居とは	授業内の発表に向けた自主稽古		
4		講義・演習	全体の流れを掴む	授業内の発表に向けた自主稽古		
5		講義・演習	ラストシーンから、自分の役割を思考する	授業内の発表に向けた自主稽古		
6		講義・演習	通し稽古から全体像を掴む	授業内の発表に向けた自主稽古		
7		講義・演習	抜き稽古で、体に芝居をなじませる	授業内の発表に向けた自主稽古		
8		講義・演習	等身大の感情を超える	授業内の発表に向けた自主稽古		
9		講義・演習	お客様に魅せる演技とは？	授業内の発表に向けた自主稽古		
10		講義・演習	発表に向けての詰め稽古	授業内の発表に向けた自主稽古		
11		講義・演習	発表に向けての詰め稽古	授業内の発表に向けた自主稽古		
12		講義・演習	演技発表してのフィードバックからの、さらなる研鑽	内容は授業内で発表		
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

配布台本・ノート・筆記用具



科目名	ナレーション 3	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	長谷川歩
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	子役・俳優・劇団主宰・ナレーター 大沢事務所所属27年 DA TOKYO講師歴7年目						
授業の学習 内容	声優のキャリアの幅でアニメーションだけでなく、ラジオCM、TVCM、ニュース番組、バラエティ番組、ドキュメント番組、など多岐に渡って活躍の場があるのがナレーションです。収録、ヒアリング、ディスカッションを繰り返すレッスンをし、卒業後はシームレスに活躍できるように目指します。						
到達目標	ナレーションにおける演技の基礎、概念、やりがい理解できるようになる。						
評価方法と基準	通常授業で取り組んでいる個人個人の課題で加点しつつ、期末にテストをします						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、ナレーションのレクチャー原稿探しのポイントなど。ナレーションの世界に触れることができる。	準備・参考映像(ニュース、バラエティ、CMなど)観賞/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
2		講義・演習	ナレーション実技① 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿②を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
3		講義・演習	ナレーション実技② 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿②を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
4		講義・演習	ナレーション実技② 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿②を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
5		講義・演習	ナレーション実技③ 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿③を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
6		講義・演習	ナレーション実技④ 音読とレクチャーでナレーションの基礎を理解することができる	準備・原稿③を練習しておく/課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
7		講義・演習	ナレーションの理解と適正① 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・1コマ目でアナウンスした、自分の好きな「ニュース、小説、歌詞、詩、など」から2編用意。※授業前日までに提出すること/課題・通例の学んだこと、発見、できたことを記入
8		講義・演習	ナレーションの理解と適正② 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
9		講義・演習	ナレーションの理解と適正③ 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
10		講義・演習	ナレーションの理解と適正④ 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
11		講義・演習	ナレーションの理解と適正⑤ 自身で選んだ原稿を読むことで理解と適正を深めることのできる	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
12		講義・演習	ナレーションの理解と適正⑥ 自身で選んだ原稿[を]読むことで理解と適正を深めることのできる口	準備・自身の原稿を練習 /課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
13		講義・演習	<期末テスト>録音して聴いてみる～前期まとめ	準備・原稿の練習/課題・前期の授業を通して学んだことをまとめて記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ナレーション4	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	長谷川歩
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	子役、演劇大学を経て声優・ナレーターとして活動。劇団主宰もしており演出、執筆経歴もあり。芸歴23年						
授業の学習 内容	正しい日本語を学び、ナレーション原稿を読むことで、原稿の意図や自己演出で試行錯誤する。CM、ラジオCM、バラエティ、ドキュメント、ニュース、吹き替え、朗読など多岐に渡るナレーションの模擬演習を行い、適性やチャレンジ精神を育みます。						
到達目標	正しい日本語の基礎、文章の読解力、演技力を用いて、自分の声質やパーソナリティを含んだ適性を掴めるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	「架空のラジオCM」を作成するためエチュードを行う	題材についてヒアリング		
2		講義・演習	エチュードを元に原稿作成① グループで話し合う	どんなCMにするか話し合う		
3		講義・演習	エチュードを元に原稿作成② 話し合った内容の起承転結を考える	プロットを描く		
4		講義・演習	エチュードを元に原稿作成③ 演じるキャラクターとナレーション部を考える	台本を完成させる		
5		講義・演習	原稿を用いキャストイングし録音、演出指導。① 録音したCMを聞き、改良点を話し合う	収録音源を聞く		
6		講義・演習	原稿を用いキャストイングし録音、演出指導。② 聞き手にわかりやすく伝わる表現について考える	収録音源を聞き、チームでディスカッション 収録に向けて準備をする		
7		講義・演習	録音、編集① 編集されることを考えた収録について	収録に向けて準備をする		
8		講義・演習	録音、編集② 短い時間で高いクオリティのCMを収録するためには	収録で感じたことを踏まえ、現在放送されているラジオ CMを聞く		
9		講義・演習	録音し編集した完成パッケージを視聴しヒアリング	聴いた音源に対して客観的に修正点を理解できるよう になる		
10		講義・演習	映像に当てるナレーションの講義、題材紹介	映像とラジオCMの違いについて学び、実際の映像を見、研究する		
11		講義・演習	映画予告、ドキュメント、ニュース、パフォーマンスなど演 習①	状況に応じたナレーションの違いに気づく		
12		講義・演習	映画予告、ドキュメント、ニュース、パフォーマンスなど演 習②	状況に応じたナレーションの違いに気づく		
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表		
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
準備学習 時間外学習						

【使用教科書・教材・参考書】

指定されたナレーション原稿、朗読台本を用意すること

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷／東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	殺陣3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	2000年より役者として活動。株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「テニスの王子様」「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	アクションとは本来(行動、動作)を意味する英語ですが、日本では暴力全般を指します。一口に暴力と言っても、殴る、蹴る、極める、投げる、切る、撃つ、等多義に渡り、役(キャラクター)によってもその行動は全く変わってきます。ここでは素手での暴力と痛みに注目し、空手の理論から武道を習っていない一般的な暴力と痛みまでを演技として表現する事、また受け手のリアクション表現を学びます。						
到達目標	暴力と痛みを表現する為に必要な技術と演技を覚える						
評価方法と基準	実技:各種の技とリアクションを表現できる=40% 理解度:攻撃の強さとそれに伴う痛みの程度を区別できる=30% 授業態度:イメージトレーニングや自主トレを怠らず、毎回の授業での講師や同級生の意見や行動から新しい発見を学ぶ事ができる=30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	拳の作り方、構え、空手の攻撃(正拳突き)	イメージトレーニング、柔軟、筋トレ
2		講義・演習	アクション式殴り(顔)、フック(顔、腹)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
3		講義・演習	リアクション(顔)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
4		講義・演習	リアクション(腹)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
5		講義・演習	空手の防御(上段受け、内受け、外受け、下段受け)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
6		講義・演習	攻撃のかわし方(さばき、ダッキング)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
7		講義・演習	空手の蹴り1(前蹴り、蹴り上げ、回し蹴り)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
8		講義・演習	空手の蹴り2(足刀、後ろ回し蹴り)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
9		講義・演習	特殊蹴り1(外蹴り、内蹴り)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
10		講義・演習	特殊蹴り2(膝蹴り、膝蹴りのリアクション)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
11		講義・演習	特殊技(前肘打ち、後ろ肘打ち、肘打ちの受け方)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
12		講義・演習	特殊技(関節技各種、関節技の受け)	前週の復習、イメトレ、柔軟、筋トレ
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			TV、映画、DVD、アニメ、動画、舞台、漫画、小説等のアクションを観て、他の俳優やアクション俳優、武道家がどう表現をしているか、またはどう動いているかを研究する。自分が出来るようになる為に必要な訓練方法(自主トレ、柔軟、筋トレ等)を見つけて行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	殺陣4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	2000年より役者として活動。株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「テニスの王子様」「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	個々が個別の技を覚えて出来るようになってもそれはアクションではありません。全てのアクションは集団行動に依って成り立ちます。複数の出演者が攻撃、被害を繰り返します。更に、それを視聴者や観客に観てもらい、感動を生ませて初めてアクションとなります。カメラの特性を知り、動画で自分の演技を観て足りない部分を見つけます。また、特別授業としてモデルガンを使い、仕組みや種類、取り扱い方のガンアクションを学びます。						
到達目標	出演者と息を合わせ、アクションと演技を組み合わせる事が出来る様になる						
評価方法と基準	実技:安全を確保しつつアクションと演技を組み合わせる=40% 理解度:瞬間瞬間で出来ること、相手にさせられる事を判断できる=30% 授業態度:講師や同級生の演技や意見から幅広く演技プランを見つけ出す=30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	カメラの特性とアクションのバリエーション	前期の復習、イメトレ、自主トレ
2		講義・演習	1vs1でのアクションとその考察1	前週の復習、イメトレ、自主トレ
3		講義・演習	1vs1でのアクションとその考察2	前週の復習、イメトレ、自主トレ
4		講義・演習	1vs1でのアクションとその考察3	前週の復習、イメトレ、自主トレ
5		講義・演習	1vs2でのアクションとその考察2	前週の復習、イメトレ、自主トレ
6		講義・演習	1vs2でのアクションとその考察2	前週の復習、イメトレ、自主トレ
7		講義・演習	1vs2でのアクションとその考察3	前週の復習、イメトレ、自主トレ
8		講義・演習	1vs多でのアクションとその考察1	前週の復習、イメトレ、自主トレ
9		講義・演習	1vs多でのアクションとその考察2	前週の復習、イメトレ、自主トレ
10		講義・演習	1vs多でのアクションとその考察3	前週の復習、イメトレ、自主トレ、
11		講義・演習	拳銃の仕組み、種類、構え方	前週の復習、イメトレ、自主トレ
12		講義・演習	ガンアクションとその考察	前週の復習、イメトレ、自主トレ
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			TV、アニメ、映画、DVD、動画、舞台、漫画、小説等を観て他の俳優やアクション俳優、キャラクターがどう表現し、どう動いているかを研究する。自分がやりたい事、出来るようになる為に必要な訓練方法(自主トレ、柔軟、筋トレ等)を見つけて行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台上で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①バレエを基礎に、ジャズ、シアターのスタイル、テクニックを学ぶ。 ②音楽性の高い心、身体を養い、表現力を学ぶ。 ③プロフェッショナルとしての意識、居方を学ぶ。 2～3回で振付(コンビネーション)を行い、仕上げる。						
到達目標	シアター、ジャズのスタイルの習得。 音楽を表現する心と身体の習得。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	シアターとは。前期の目標設定	各自前期の目標設定。
2		講義・演習	ウォーキング、立ち方/振付A①	自分のプロポーション、骨格を見直す
3		講義・演習	ウォーキング、立ち方/振付A②	自分に合ったストレッチ、トレーニングを習慣的に実践する
4		講義・演習	足さばき、身体のライン作り/振付B①	足のライン、立ち方、姿勢を見直す
5		講義・演習	足さばき、身体のライン作り/振付B②	上体の使い方、表情の研究
6		講義・演習	コアを意識した身体作り/振付C①	コア(丹田、体幹)トレーニングの強化
7		講義・演習	コアを意識した身体作り/振付C②	コアから繋がる身体作り強化
8		講義・演習	テクニック強化(ターン)/振付D①	テクニックの見直し、反復練習
9		講義・演習	テクニック強化(ジャンプ)/振付D②	テクニックの見直し、反復練習
10		講義・演習	音楽性の向上/振付E①	様々なジャンルの音楽を聴く
11		講義・演習	音楽性の向上/振付E②	音楽が身体で表現できているか研究
12		講義・演習	ターンに合った踊り、芝居心のある踊りの研究/振付F①	コントロールのきく身体作り
13		講義・演習	前期まとめ/振付F②	前期の振り返り、後期への目標設定
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			日常的に様々な芸術に触れ、感性を磨く。ストレッチ、トレーニングの習慣化。	
【使用教科書・教材・参考書】 身体にフィットした服装、ヒール				

科目名	シアターJAZZ4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①バレエを基礎に、ジャズ、シアターのスタイル、テクニックを学ぶ。 ②音楽性の高い心、身体を養い、表現力を学ぶ。 ③プロフェッショナルとしての意識、居方を学ぶ。 2～3回で振付(コンビネーション)を行い、仕上げる。						
到達目標	シアター、ジャズのスタイルの習得。 音楽を表現する心と身体の習得。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	後期の目標設定/振付G①	各自後期の目標設定
2		講義・演習	コントロールの効く身体作り/振付G②	身体の長所短所を見つめ、ストレッチ、トレーニングを見直す
3		講義・演習	コントロールの効く身体作り/振付H①	ストレッチ、トレーニングの習慣化
4		講義・演習	舞台上を意識した身体の使い方/振付H②	客観的に自分を捉える
5		講義・演習	伝える、届く、身体、表情の使い方/振付I①	表情の研究
6		講義・演習	アンサンブルとは/振付I②	身体の角度、音の取り方の研究
7		講義・演習	アンサンブルとは/振付J①	足さばき、上体の使い方の研究
8		講義・演習	テクニックを使い、音楽を表現する/振付J②	テクニックの見直し
9		講義・演習	テクニックを使い、感情を表現する/振付K①	振付の組み立て方、構成を考える
10		講義・演習	シンプルな身体のライン作り/振付K②	身体のライン(シルエット)の研究
11		講義・演習	アームス、上体のライン作り/振付L①	身体作りの見直し
12		講義・演習	後期まとめ/振付L②	身体の変化への気付きを持つ
13		講義・演習	一年間のまとめ/振付L③	一年間の成果、今後の目標設定
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			日常的に様々な芸術に触れ、感性を磨く。ストレッチ、トレーニングの習慣化。	
【使用教科書・教材・参考書】				
身体にフィットした服装、ヒール				

科目名	映像アクティング1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	真田幹也
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	役者活動暦25年 監督暦21年 DA講師暦9年						
授業の学習 内容	①既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく②個人やチームに分かれて動画を撮影。撮影後、全体で試写をしながら、作品作りに対しての興味を深めていく						
到達目標	①カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動けるようになる/演技は楽しいと思えるようになる②カメラの特性を習得し、自ら動画(自己PR、MV、ショートムービー)の基礎を作れるようになる/作品作りは楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	受講態度(発表、課題への取り組み方)65% 技術修得能力35%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④	配布課題の理解を深める
2		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④リハーサル	配布課題の理解を深める
3		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④リハーサル	配布課題の理解を深める
4		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④撮影	撮影で感じたことを意識→修正口
5		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
6		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
7		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
8		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを精査する
9		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを精査する
10		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	各自スマホorカメラで撮影
11		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	各自スマホorカメラで撮影・編集
12		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	撮影で感じたことを意識→修正口
13		講義・演習	前期を振り返って	次年度への準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回までの内容を復習、次の内容に備える・たくさんの映画やドラマを観てみる	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	映像アクティング2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	真田幹也
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	役者活動暦25年 監督暦21年 DA講師暦9年						
授業の学習 内容	①既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく②個人やチームに分かれて動画を撮影。撮影後、全体で試写をしながら、作品作りに対しての興味を深めていく						
到達目標	①カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動けるようになる/演技は楽しいと思えるようになる②カメラの特性を習得し、自ら動画(自己PR、MV)の基礎を作れるようになる/作品作りは楽しいと思えるようになる□						
評価方法と基準	受講態度(発表、課題への取り組み方)65% 技術修得能力35%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	カメラ前で芝居ができる③	配布課題の理解を深める
2		講義・演習	カメラ前で芝居ができる③リハ	配布課題の理解を深める
3		講義・演習	カメラ前で芝居ができる③リハ	配布課題の理解を深める
4		講義・演習	カメラ前で芝居ができる③撮影	撮影で感じたことを意識→修正□
5		講義・演習	MVを作る	撮影のイメージを構築する
6		講義・演習	MVを作る/カット割りを考えてみる	撮影のイメージを構築する
7		講義・演習	MVを作る/ロケ地を探してみる	撮影のイメージを構築する
8		講義・演習	MVを作る/リハ	撮影のイメージを精査する
9		講義・演習	MVを作る/リハ	撮影のイメージを精査する
10		講義・演習	MVを作る/撮影	各自スマホorカメラで撮影・編集
11		講義・演習	MVを作る/撮影	各自スマホorカメラで撮影・編集
12		講義・演習	MVを作る/試写	撮影で感じたことを意識→修正□
13		講義・演習	前期を振り返って	次年度への準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回までの内容を復習、次の内容に備える・たくさんの映画やドラマを観てみる	
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	ステージアクション3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	服部整治
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	演劇ユニットSPIRALCHARIOTS主宰・主な殺陣経歴 SEGA原作2.5次元舞台「レンタヒーロー」「ゴールデンアックス」						
授業の学習 内容	剣等の得物を使った殺陣指導です。基本から見栄えのあるアクション。実際に殺陣シーンを作り上げるまで手をつけて、演出家の観点からも見栄えがあり、ちゃんとその殺陣を感情を乗せて演じる役者になれる授業を展開します。						
到達目標	①基本的な動きを身に着ける→②基本的な刀の振り(十手)を身に着ける→③つけられた手をすぐに体現出来るようになる→④集団の中で「からみ」と「芯」の違いをとらえる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、学習の目的説明	殺陣シーンのある映画を鑑賞する
2		講義・演習	①基本動作が出来るようになる。	部位の名称、基本型など
3		講義・演習	②基本動作が出来るようになる。	所作から十手の説明
4		講義・演習	①型からの打ち込み練習	2人組みの3手
5		講義・演習	②型からの打ち込み練習	2人組みの6手
6		講義・演習	実際の手をつける上での座学	前週の復習、イメトレ、自主トレ
7		講義・演習	①殺陣シーン参加出来るようになる。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
8		講義・演習	②殺陣シーン参加出来るようになる。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
9		講義・演習	③殺陣シーン参加出来るようになる。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
10		講義・演習	④殺陣シーン参加出来るようになる。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
11		講義・演習	⑤殺陣シーン参加出来るようになる。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
12		講義・演習	①芝居を交えて殺陣参加が出来る。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
13		講義・演習	②芝居を交えて殺陣参加が出来る。	前週の復習、イメトレ、自主トレ
14		講義・演習	テスト(実技)	内容は授業内で発表
15		講義・演習	まとめの授業	内容は授業内で発表
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ステージアクション4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	服部整治
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	演劇ユニットSPIRALCHARIOTS主宰・主な殺陣経歴 SEGA原作2.5次元舞台「レンタヒーロー」「ゴールデンアックス」						
授業の学習 内容	剣等の得物を使った殺陣指導です。基本から見栄えのあるアクション。実際に殺陣シーンを作り上げるまで手をつけて、演出家の観点からも見栄えがあり、ちゃんとその殺陣を感情を乗せて演じる役者になれる授業を展開します。						
到達目標	①基本的な動きを身に着ける→②基本的な刀の振り(十手)を身に着ける→③つけられた手をすぐに体現出来るようになる→④集団の中で「からみ」と「芯」の違いをとらえる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用①	殺陣シーンのある映画を鑑賞する
2		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用②	部位の名称、基本型など
3		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用③	所作から十手の説明
4		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用④	2人組みの3手
5		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑤	2人組みの6手
6		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑥	前週の復習、イメトレ、自主トレ
7		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑦	前週の復習、イメトレ、自主トレ
8		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑧	前週の復習、イメトレ、自主トレ
9		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑨	前週の復習、イメトレ、自主トレ
10		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑩	前週の復習、イメトレ、自主トレ
11		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑪	前週の復習、イメトレ、自主トレ
12		講義・演習	芝居を交えて殺陣参加 応用⑫	前週の復習、イメトレ、自主トレ
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
15		講義・演習	まとめの授業	内容は授業内で発表
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アニソンゼミ 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「機動戦士Z・ガンダム」エンディング・テーマや主題歌、また200曲以上のCMソングを担当するなどヴォーカリストとして活躍中。						
授業の学習 内容	アニソンを文化ととらえ、アーティストとしてこれからどう歌っていくかを追求及び研究する。各自選曲し、ステージ上での歌唱(基本発声・音程・リズム・表現等)レクチャーを受ける。 自身の個性や方向性を考えながら、ステージングや衣裳などセルフプロデュースする。 また、ライブの進行や、スタッフとのコミュニケーションも学び、お客様はもちろん、スタッフや共演者からも愛されるアーティストになるための人間力も学ぶ。アーティストとしての自我育成にも努めていく。						
到達目標	セルフプロデュースでライブを行えるアーティストを目指し、歌唱及びステージングの技術やアーティスト感性を持てるようになる。学期末に音楽テクノロジー科協力のもと、本式のライブを行い、動員・内容共に成功させる。 卒業後に、いちアーティストとしてどう活躍していくかのビジョンを持ち始められることを目指す。						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% 最終授業・ライブパフォーマンス 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り、セルフプロデュースについて再考察、選曲	選曲をした楽曲のINST音源・歌詞(2部)用意
2		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
3		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
4		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
5		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
6		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
7		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
8		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
9		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
10		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
11		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
12		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
13		演習	後期発表会・ライブ・パフォーマンス	ライブを通じて、卒業後に向けた課題を探す
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
Keyboard、マイク、ポータブルスピーカー、iPad・持参音源、歌詞カード(2部用意)、筆記用具				

科目名	アニソンゼミ 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	鮎川麻弥
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「機動戦士Z・ガンダム」エンディング・テーマや主題歌、また200曲以上のCMソングを担当するなどヴォーカリストとして活躍中。						
授業の学習 内容	アニソンを文化ととらえ、アーティストとしてこれからどう歌っていくかを追求及び研究する。各自選曲し、ステージ上での歌唱(基本発声・音程・リズム・表現等)レクチャーを受ける。オンラインLIVEでの表現ポイントも学ぶ。自身の個性や方向性を考えながら、ステージングや衣裳などセルフプロデュースする。また、ライブの進行や、スタッフとのコミュニケーションも学び、お客様はもちろん、スタッフや共演者からも愛されるアーティストになるための人間力も学ぶ。アーティストとしての自我育成にも努めていく。						
到達目標	セルフプロデュースでライブを行えるアーティストを目指し、歌唱及びステージングの技術やアーティスト感性を持てるようになる。学期末に音楽テクノロジー科協力のもと、本式のライブを行い、動員・内容共に成功させる。いちアーティストとしてどう活躍していくかのビジョンを持って卒業できると尚良い。						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% 最終授業・ライブパフォーマンス 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の振り返り、セルフプロデュースについて再考察、選曲	選曲をした楽曲のINST音源・歌詞(2部)用意
2		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
3		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
4		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
5		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー	もらったアドバイスに対しての練習
6		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
7		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
8		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
9		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
10		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
11		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
12		演習	発声、ソロ歌唱&レクチャー 暗譜にてパフォーマンス	もらったアドバイスに対しての練習 暗譜をしてくる
13		演習	後期発表会・ライブ・パフォーマンス	ライブを通じて、卒業後に向けた課題を探す
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
Keyboard、マイク、ポータブルスピーカー、iPad・持参音源、歌詞カード(2部用意)、筆記用具				

科目名	日本舞踊1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	五條 翠蝶
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	久世光彦氏・木村光一氏・佐藤信氏演出作品等、数々の舞台やミュージカルに出演。 女優業は福沢亜希子の名で活動。現在は都内芸能養成所・高校等でダンスインストラクターも務める。						
授業の学習 内容	日本舞踊を通じて、伝統芸能、和服の所作を学ぶ。 役の年齢よっての着付け、所作の違いを学ぶ。 小曲「白扇」の振りを勉強し、日本舞踊の基本動作を学ぶ。						
到達目標	浴衣の着付けが、自身と他人、両方できるようになる。 古典舞踊、新舞踊を知ることが出来る。 和服でのステール撮影、時代劇で生かせる所作を学ぶ事ができる。 男女問わず、男踊り・女踊りを経験することにより、男らしい・女らしい所作を身につけることが出来る。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	浴衣の着付け、たたみ方	浴衣をきれいに着れるようになる
2		講義・演習	浴衣の着付け、挨拶、摺り足	浴衣をスピーディーに着れるようになる
3		講義・演習	「白扇」1 舞扇の名称について	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
4		講義・演習	「白扇」2 扇子を使った所作	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
5		講義・演習	「白扇」3 浴衣着付けテスト	振りの練習
6		講義・演習	「白扇」4 前週の復習・男踊りの基本の足さばき	振りの練習
7		講義・演習	「白扇」5 前週の復習・基本に忠実に踊る	振りの練習
8		講義・演習	「白扇」6 前週の復習・反復練習	振りの練習
9		講義・演習	「白扇」7 前週の練習・細かな表現と基礎	振りの練習
10		講義・演習	「白扇」8 男踊り、女踊りについて	振りの練習
11		講義・演習	「白扇」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
12		講義・演習	新舞踊1 自分の表現とは	振りを練習してくる
13		講義・演習	新舞踊2 基礎を重視した個性について	所作の確認
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			自主練習を行い、踊りを研鑽すること 日本舞踊などの日本の伝統芸能に触れていくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 (自分で用意)浴衣・帯・下着・足袋 (学校で用意)扇子				

科目名	日本舞踊2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	五條 翠蝶
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	久世光彦氏・木村光一氏・佐藤信氏演出作品等、数々の舞台やミュージカルに出演。 女優業は福沢亜希子の名で活動。現在は都内芸能養成所・高校等でダンスインストラクターも務める。						
授業の学習 内容	日本舞踊を通じて、伝統芸能、和服の所作を学ぶ。 役の年齢によつての着付け、所作の違いを学ぶ。 小曲「白扇」の振りを勉強し、日本舞踊の基本動作を学ぶ。						
到達目標	浴衣の着付け、古典舞踊、新舞踊を知ること自身の知識として扱えるようになる。 和服でのスチール撮影、時代劇で生かせる所作を学び、自身のスキルとして扱えるようになる。 男女問わず、男踊り・女踊りを経験することにより、男らしい・女らしい所作を身につけられるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「江戸まつり」1 前半部分振り入れ	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
2		講義・演習	「江戸まつり」2 後半部分振り入れ	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
3		講義・演習	「江戸まつり」3 全体を通して細かな確認	振りの練習
4		講義・演習	「江戸まつり」4 粋に踊る	振りの練習
5		講義・演習	「江戸まつり」5 間を感じて表現する	振りの練習
6		講義・演習	「江戸まつり」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
7		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」1 女踊りの所作・振り入れ	振りを練習してくる
8		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」2 表現を感じながら踊る	振りを練習してくる
9		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
10		講義・演習	創作舞踊1 現代曲と日本舞踊	振りの練習
11		講義・演習	創作舞踊2 基本を重視した自分らしい表現について	振りの練習
12		講義・演習	創作舞踊3 1年を通じて踊った作品を披露する”口	振りの練習
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			自主練習を行い、踊りを研鑽すること 日本舞踊などの日本の伝統芸能に触れていくこと	
【使用教科書・教材・参考書】				
浴衣・帯・足袋・扇子				

科目名	アクティング1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽をし続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	残り1年間のをどう有意義に過ごしていくか考え、「目標を決定」すること、今の自分への課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	発表を通してのフィードバック 自身の目標に対しての達成度を考える	後期に向けた題材探し
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

科目名	アクティング2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア & テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽をし続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	卒業後、社会人として芸能界に足を踏み入れた後をイメージし、現在の自分から自分の課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
13		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				



科目名	演技・演出ゼミ 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	米山和仁
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	「ホチキス」を旗揚げ、同劇団代表。現在までの本公演30本、全ての作・演出を担当。コメディーから壮大な時代劇、ミュージカルとその作風は多岐に渡る。パナソニックの宣伝マンを10年務め、朝日広告賞グランプリ他、多くの広告賞を受賞。若手アーティストの育成に力を入れる。外部公演への書き下ろしも多数。						
授業の学習 内容	演出家の仕事を通して、芸能界で生きていくすべを身につける						
到達目標	自己の強み・弱みを知り、自己演出=セルフプロデュースができるようになる。						
評価方法と基準	実技審査						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	演出とは何か①	なりたい自分を考える
2		講義・演習	演出とは何か②	前回の復習と予習
3		講義・演習	演出とは何か③	前回の復習と予習
4		講義・演習	演出とは何か④	前回の復習と予習
5		講義・演習	演出とは何か⑤	前回の復習と予習
6		講義・演習	「テーマ」とは何か①	前回の復習と予習
7		講義・演習	「テーマ」とは何か②	前回の復習と予習
8		講義・演習	作品の解釈①	前回の復習と予習
9		講義・演習	作品の解釈②	前回の復習と予習
10		講義・演習	立体化へのプロセス①	前回の復習と予習
11		講義・演習	立体化へのプロセス②	前回の復習と予習
12		講義・演習	テスト	前回の復習と予習
13		講義・演習	テスト振り返り	前回の復習と予習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演技・演出ゼミ2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	米山和仁
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	「ホチキス」を旗揚げ、同劇団代表。現在までの本公演30本、全ての作・演出を担当。コメディイから壮大な時代劇、ミュージカルとその作風は多岐に渡る。パナソニックの宣伝マンを10年務め、朝日広告賞グランプリ他、多くの広告賞を受賞。若手アーティストの育成に力を入れる。外部公演への書き下ろしも多数。						
授業の学習 内容	演出家の仕事を通して、芸能界で生きていくすべを身につける						
到達目標	自己の強み・弱みを知り、自己演出=セルフプロデュースができるようになる。						
評価方法と基準	実技審査						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	美術の発注①	なりたい自分を考える
2		講義・演習	美術の発注②	前回の復習と予習
3		講義・演習	衣裳の発注①	前回の復習と予習
4		講義・演習	衣裳の発注②	前回の復習と予習
5		講義・演習	照明のプランニング①	前回の復習と予習
6		講義・演習	照明のプランニング②	前回の復習と予習
7		講義・演習	音楽のイメージ①	前回の復習と予習
8		講義・演習	音楽のイメージ②	前回の復習と予習
9		講義・演習	キャストینگとは①	前回の復習と予習
10		講義・演習	キャストینگとは②	前回の復習と予習
11		講義・演習	収支で黒字を出すには	前回の復習と予習
12		講義・演習	テスト	前回の復習と予習
13		講義・演習	テスト振り返り	前回の復習と予習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アフレコワークショップ実習 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	中山知佳
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より、舞台を中心に活動。2005年声優として活動開始。2014年4月よりアップアンドアップスに所属。2015年より紙芝居師として14年間活動中。						
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアフレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。						
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の進め方、説明。オーディション 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	オーディション作品のアフレコ演習 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習1 セリフ、マイクワークを理解し、台本を読解する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習2 スタジオマナー・演出に対する態度など、基本的なマナーについて	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習3 演出に対する瞬発力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習4 演出を理解して、瞬発力とともに対応する力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習5 大人数でのアフレコ演習	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習6 音響監督と声優	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習7 演じ分けとマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習8 台本を深く読み込む マイクワークを身につける	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習9 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習10 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
13		講義・演習	アフレコ演習11、振り返り、総括 ディレクションに対する瞬発力を試す	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャストイングを発表。プロの現場と違って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャストイング発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

科目名	アフレコワークショップ実習 2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	中山知佳
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	90 (6)		
教員の略歴	2002年より、舞台を中心に活動。2005年声優として活動開始。2014年4月よりアップアンドアップスに所属。2015年より紙芝居師として14年間活動中。						
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアフレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。						
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アフレコ演習1 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	アフレコ演習2 アフレコ関係者への立ち振る舞い(好感度について)	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習3 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習4 演出に対するの瞬発力と応用力	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習5 自分が「演じられるキャラクター」と「演じたいキャラクター」の違い	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習6 「演じられるキャラクター」を極める	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習7 感情解放とマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習8 音響監督と声優 共演者とのコミュニケーション	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習9 作品について調べ上げ、セリフ一つ一つにこだわる	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習10 視聴者を意識する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習11 間について考える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習12 間について考える	内容は授業内で発表
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャストイングを発表。プロの現場と違って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャストイング発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

科目名	ミュージカルゼミ3	必修 選択		年次	2	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 1年生時より難易度が高いミュージカル課題への挑戦。						
到達目標	2年制では、より難易度が高いミュージカル課題に挑戦し、プロフェッショナルの現場で通用する歌唱力・演技力・表現力を身に着けることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験における結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	課題① 説明、2年から参加学生への基礎説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 実習	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題② 説明	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 実習	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ミュージカルゼミ4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 1年生時より難易度が高いミュージカル課題への挑戦。						
到達目標	2年制では、より難易度が高いミュージカル課題に挑戦し、プロフェッショナルの現場で通用する歌唱力・演技力・表現力を身に着けることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験における結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	課題① 説明、2年から参加学生への基礎説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 実習	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題② 説明	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 実習	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージカル 『マンマ・ミーア!』 『美女と野獣』				

科目名	演技・演出ゼミ 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	米山和仁
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	「ホチキス」を旗揚げ、同劇団代表。現在までの本公演30本、全ての作・演出を担当。コメディから壮大な時代劇、ミュージカルとその作風は多岐に渡る。パナソニックの宣伝マンを10年務め、朝日広告賞グランプリ他、多くの広告賞を受賞。若手アーティストの育成に力を入れる。外部公演への書き下ろしも多数。						
授業の学習 内容	演出家の仕事を通して、芸能界で生きていくすべを身につける						
到達目標	自己の強み・弱みを知り、自己演出=セルフプロデュースができるようになる。						
評価方法と基準	実技審査						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	演出とは何か①	なりたい自分を考える
2		講義・演習	演出とは何か②	前回の復習と予習
3		講義・演習	演出とは何か③	前回の復習と予習
4		講義・演習	演出とは何か④	前回の復習と予習
5		講義・演習	演出とは何か⑤	前回の復習と予習
6		講義・演習	「テーマ」とは何か①	前回の復習と予習
7		講義・演習	「テーマ」とは何か②	前回の復習と予習
8		講義・演習	作品の解釈①	前回の復習と予習
9		講義・演習	作品の解釈②	前回の復習と予習
10		講義・演習	立体化へのプロセス①	前回の復習と予習
11		講義・演習	立体化へのプロセス②	前回の復習と予習
12		講義・演習	テスト	前回の復習と予習
13		講義・演習	テスト振り返り	前回の復習と予習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演技・演出ゼミ2	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	米山和仁
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	「ホチキス」を旗揚げ、同劇団代表。現在までの本公演30本、全ての作・演出を担当。コメディから壮大な時代劇、ミュージカルとその作風は多岐に渡る。パナソニックの宣伝マンを10年務め、朝日広告賞グランプリ他、多くの広告賞を受賞。若手アーティストの育成に力を入れる。外部公演への書き下ろしも多数。						
授業の学習 内容	演出家の仕事を通して、芸能界で生きていくすべを身につける						
到達目標	自己の強み・弱みを知り、自己演出=セルフプロデュースができるようになる。						
評価方法と基準	実技審査						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	美術の発注①	なりたい自分を考える
2		講義・演習	美術の発注②	前回の復習と予習
3		講義・演習	衣裳の発注①	前回の復習と予習
4		講義・演習	衣裳の発注②	前回の復習と予習
5		講義・演習	照明のプランニング①	前回の復習と予習
6		講義・演習	照明のプランニング②	前回の復習と予習
7		講義・演習	音楽のイメージ①	前回の復習と予習
8		講義・演習	音楽のイメージ②	前回の復習と予習
9		講義・演習	キャストینگとは①	前回の復習と予習
10		講義・演習	キャストینگとは②	前回の復習と予習
11		講義・演習	収支で黒字を出すには	前回の復習と予習
12		講義・演習	テスト	前回の復習と予習
13		講義・演習	テスト振り返り	前回の復習と予習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				



科目名	演技・演出ゼミ3	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	米山和仁
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	「ホチキス」を旗揚げ、同劇団代表。現在までの本公演30本、全ての作・演出を担当。コメディから壮大な時代劇、ミュージカルとその作風は多岐に渡る。パナソニックの宣伝マンを10年務め、朝日広告賞グランプリ他、多くの広告賞を受賞。若手アーティストの育成に力を入れる。外部公演への書き下ろしも多数。						
授業の学習 内容	演出家の仕事を通して、芸能界で生きていくすべを身につける						
到達目標	自己の強み・弱みを知り、自己演出=セルフプロデュースができるようになる。						
評価方法と基準	実技審査						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	美術の発注①	なりたい自分を考える
2		講義・演習	美術の発注②	前回の復習と予習
3		講義・演習	衣裳の発注①	前回の復習と予習
4		講義・演習	衣裳の発注②	前回の復習と予習
5		講義・演習	照明のプランニング①	前回の復習と予習
6		講義・演習	照明のプランニング②	前回の復習と予習
7		講義・演習	音楽のイメージ①	前回の復習と予習
8		講義・演習	音楽のイメージ②	前回の復習と予習
9		講義・演習	キャストینگとは①	前回の復習と予習
10		講義・演習	キャストینگとは②	前回の復習と予習
11		講義・演習	収支で黒字を出すには	前回の復習と予習
12		講義・演習	テスト	前回の復習と予習
13		講義・演習	テスト振り返り	前回の復習と予習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演技・演出ゼミ 4	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	米山和仁
学科・コース	メディア&テクノロジー科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	「ホチキス」を旗揚げ、同劇団代表。現在までの本公演30本、全ての作・演出を担当。コメディから壮大な時代劇、ミュージカルとその作風は多岐に渡る。パナソニックの宣伝マンを10年務め、朝日広告賞グランプリ他、多くの広告賞を受賞。若手アーティストの育成に力を入れる。外部公演への書き下ろしも多数。						
授業の学習 内容	演出家の仕事を通して、芸能界で生きていくすべを身につける						
到達目標	自己の強み・弱みを知り、自己演出=セルフプロデュースができるようになる。						
評価方法と基準	実技審査						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	美術の発注①	なりたい自分を考える
2		講義・演習	美術の発注②	前回の復習と予習
3		講義・演習	衣裳の発注①	前回の復習と予習
4		講義・演習	衣裳の発注②	前回の復習と予習
5		講義・演習	照明のプランニング①	前回の復習と予習
6		講義・演習	照明のプランニング②	前回の復習と予習
7		講義・演習	音楽のイメージ①	前回の復習と予習
8		講義・演習	音楽のイメージ②	前回の復習と予習
9		講義・演習	キャストینگとは①	前回の復習と予習
10		講義・演習	キャストینگとは②	前回の復習と予習
11		講義・演習	収支で黒字を出すには	前回の復習と予習
12		講義・演習	テスト	前回の復習と予習
13		講義・演習	テスト振り返り	前回の復習と予習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				